

**平成 29 年度  
高知大学国際連携推進センター年報**

## 平成 29 年度 年 報 目 次

国際連携推進センター基本方針	3
1. はじめに（国際連携推進センター長 新納 宏）	8
2. 組織・スタッフ	9
(1) 組織図	
(2) スタッフ紹介	
3. 活動状況	10
3-1 国際交流	
(1) 講演会等	
① 「留学生と地域との交流」長谷川恵一（エール学園・理事長）	
② 「日本とアフリカの関係」チャム・ウガラ・ウリヤトウ (駐日エチオピア連邦民主共和国大使)	
(2) 学長等表敬訪問等	12
① 黒潮圏総合科学専攻主催国際シンポジウムに伴うインドネシア、フィリピン（ビコール地方）の大学等関係者による学長・理事表敬訪問	
② ベトナム・ゲアン省訪問団一行による櫻井理事表敬訪問	
③ SUIJI 国内サービスラーニングプログラム学生の理事表敬訪問	
④ 中国・安徽大学訪問団による学長表敬訪問	
⑤ 駐日エチオピア大使による学長表敬訪問	
⑥ 「海外フィールドサイエンス実習」参加者による理事表敬訪問	
⑦ 中国・安徽大学訪問団による高知大学視察	
(3) JICA 受託事業	18
① JICA 課題別研修「インクルーシブ教育実践強化」コース	
② JICA 課題別研修「“子どもの学びを保障する”へき地教育の振興—SDGs の達成に向けて」コース	
③ JICA 課題別研修「島嶼国総合防災行政（B）」コース	
④ JICA 課題別研修「コミュニティ防災（B）」コース	
(4) 外国人留学生ネットワーク 中国・タイ・北欧の合同同窓会	22
3-2 留学生交流	23
(1) 留学生交流事業	
① カルチャーカフェ（第18回～25回）	
② 四国カルスト見学&檮原高等学校生徒との交流	
③ 外国人留学生課外研修（安芸市）	
④ 第2回学長杯日本語スピーチコンテスト・交流懇親会	

(2) 地域交流事業等	3 2
① 県立高知追手前高等学校にて留学生による「異文化理解講座」	
② 教育学部附属特別支援学校主催 “留学生との交流会”	
③ 朝倉小校区青少年育成協議会主催料理教室 「インドネシア料理に挑戦」	
④ 夏休みこども教室 (高知市立はりまや橋小学校)	
⑤ 「日本の伝統の暮らし体験」(大豊町)	
⑥ 高知南高等学校国際科インターナショナルディ	
(3) 留学生支援	3 6
① 新入留学生オリエンテーション	
② 帰国準備説明会	
(4) 短期プログラム受入事業	3 8
① 協定校向け英語によるサマープログラム	
② 対日理解交流促進プログラム 「カケハシ・プロジェクト」	
(5) 海外派遣留学支援	4 1
海外留学説明会 (第1回～第4回)	
(6) 国際交流基金助成事業	4 2
① 平成28年度高知大学国際交流基金助成事業報告会	
② 平成29年度第1回高知大学国際交流基金助成事業助成決定通知書交付式	
③ 平成29年度第2回高知大学国際交流基金助成事業助成決定通知書交付式	
4. 進学説明会	4 4
① エール学園進路オリエンテーション (大阪)	
② ジーベック 2017年外国人留学生相談会 (岡山)	
③ ジーベック 2017年外国人留学生相談会、日本語学校訪問 (香川)	
④ 平成29(2017)年度外国人学生のための進学説明会 (東京)	
⑤ 平成29(2017)年度外国人学生のための進学説明会 (大阪)	
⑥ 大阪日本語教育センター合同進学説明会	
5. 日本語授業関係 (授業時間割、シラバスなど)	4 9
6. 出版・刊行物等	6 4
Welcome to Kochi University、Annual Bulletin (英語)、高知大学国際交流 HP、Facebook	
7. 会議関係	6 7
国際連携推進委員会、留学生専門委員会、国際連携推進センター運戦略室会議	
8. その他	7 1
交流協定締結一覧 (大学間・部局間)、外国人留学生在籍 (国別)、外部資金獲得 状況資料	

## 高知大学 国際連携推進センター基本方針

### **設置の経緯**

国際連携推進センターは本学の各部局等と連絡の上、教育・研究交流、国際協力プロジェクト及び留学生の受入れ、本学学生の海外留学・派遣などを司る。本センターは、国際プロジェクト部門と国際連携教育部門から成り、中国語センターを附置する。

新センター設置にあたり、高知大学におけるこれまでの取組み【国際交流ポリシー（平成18年4月12日役員会決定）ならびに国際交流のあり方懇（平成20年11月20日）の報告】を踏まえて、国際連携推進センターの新しい基本方針を策定し、業務の方向性を示す。

### **国際連携推進センターの基本方針**

#### 1. グローカルな国際連携を目指す

高知県と同様の開発課題を抱えるアジア・大洋州等の開発途上国とのつながりを重視し、教育、研究、国際貢献の面で重点化を図っていく。地域と共に学び研究する「知の拠点」として、地域から世界に発信する大学を目指す。

#### 2. 双方向の国際交流を推進する

留学生の受入のみならず、本学学生の海外留学の促進に重点を置く。ワンストップサービスを強化し、海外からの優れた留学生受入れを増やす。日本人学生と留学生が集い、互いに学びあうキャンパスを創造する。

#### 3. 地球規模の課題に対する国際協力をチャレンジする

本学の研究シーズと高知県の地域資源の特徴を生かして、国際協力を推進する。国際協力の現場を教育・研究の場としても活用し、実践的で国際的な教育・研究を発展させる。

## **基本方針を具体化する活動**

### **国際プロジェクト部門**

#### **1．国際連携の分野・地域を重点化する**

(1) 教育、研究、国際貢献すべての側面において都市部の有力大学、大規模大学との差別化をすすめ、高知大学にしかできない、あるいは高知大学が比較的優位にある教育研究分野を明確化し、海外へ発信していく。例えば、分野としては高知県の課題解決と直結する①実践的な農業及び食品加工、②海洋資源の利活用、③防災・気象変動・環境、④保健・医療、⑤学校教育、⑥地域の社会・経済開発などがあり得る。

(2) 将来の教育・研究の国際的なネットワークを強化するため、留学生受け入れにあたっては、協定校はもとより、本学の重点地域である黒潮流域圏を含む東南アジア、特に若年人口が増大を続け、高等教育への需要の高い国々からも、将来性のある優秀な学位取得を目的とする留学生を積極的に受入れる。

#### **2．国際交流拠点を中心に国際的な研究を推進する**

(1) 高知大学ならではの分野・地域における研究交流を促進するため、国際化戦略経費を重点配分し、外部資金を獲得できるよう支援する。配分にあたってはネットワーク型、文理融合型のプロジェクトを優先する。

(2) 文理融合の研究交流や国際協力の促進を図るため、国際化戦略経費の一部をあてて、国・県の政策や計画とすり合わせて特定の研究テーマや対象地域を決め、関心ある研究者を公募して調査を行い、国際的な共同研究を発掘する。

#### **3．国際協力に積極的にチャレンジする**

(1) 教員の研究成果を国際協力に生かし、ODA資金による国際協力活動を活発化させる。特にJICAによる途上国行政官向け国際研修は、直接途上国政府とのネットワークを強化し、海外事情に容易にアクセスできるため、積極的に開発・実施する。実施にあたっては、学生に国際協力を体験させるなど、教育面での活用も考慮する。

(2) 国際協力活動は、国際貢献の面のみではなく、教育・研究に様々なメリットがあり、本学の目標の遂行に不可欠である。そのため、教職員の国際協力活動が正当に評価されるような仕組みを作る。

(3) 国際協力事業を形成するにあたっては、国内においては高知県の自治体、企業、NGOとの連携、また、海外においては協定校との協働も視野に入れて、ステークホルダーを巻き込んだ案件に配慮する。このことによって、地域連携や協定校との連携がさらに促進される効果が期待できる。

#### **国際連携教育部門**

##### 1. 高知大学からの留学生派遣を増やす

- (1) アジアの協定校からの留学生受入数に対し派遣数が少ないことから、アジアの英語共通語圏（フィリピン、マレーシアなど）の協定校への留学生派遣を増やす。また中国語圏の協定校への派遣を増やす。
- (2) 協定校への留学生派遣を増やすため、協定校情報の整理とパンフレット、インターネットでの発信を強化、また学生向けセミナーを多重的に開催するなど、学生の関心を高める。
- (3) 留学希望者の英語力アップのため、学部等と共同で TOEFL 等対策講座の開発や支援を行うとともに、派遣数增加のために有効活用する。
- (4) 中国語センターを活用して、中国留学への学生や保護者の関心を高め、学生の中国語力をアップさせる。

##### 2. 日本人学生等と留学生が共に集い、共に学ぶキャンパスを創造する

- (1) 留学生向け行事は、日本人学生も参加可能とし、学生たち自身の企画を取り入れる。（例：日本語スピーチコンテスト、留学生による協定校紹介セミナー、学外への合同研修旅行など）
- (2) 高知大学ポータルサイトの国際関連部分は英語対応とし、学内のサインや看板も日・英2か国語併記とし、留学生に優しいキャンパスを実現する。
- (3) 日本人学生等と留学生が、常時集い情報交換できる交流スペースを確保する。交流スペースには、コンピューターと外国語雑誌、留学情報などがいつでも見られるよう整備し、留学生向けビジョンボックスを置く。

### 3. 留学生獲得から受入れまで、ワンストップサービスを強化する

- (1) 留学生の獲得に当たっては、協定校からの短期留学のみならず、質の確保を前提に JICA 留学生（修士）や私費留学生、国費留学生など長期留学生を積極的に獲得する。そのために国際連携推進センターは、留学生向けの広報ツール（外国語によるウェブサイト、パンフレット、DVD など）を開発し、国内のみならず海外での留学フェアに参加し海外大学での説明会などを開催する。また、学術交流等で海外の大学等へ出張する際にも、留学生勧奨のための活動を行うことを促進する。（例：国際化戦略経費の申請項目にも留学生獲得努力を追加するなど）
- (2) 教員の留学生受入/派遣の事務的負担を減らし、留学生の利便性向上を図るため、留学生受入/派遣事務は、国際連携推進センターがワンストップサービスとしての役割を担う。また、教員向け及び留学生向けの受入手続マニュアル、留学希望者向けの留学マニュアル、留学生受入/派遣危機管理マニュアル等を整備しイントラネット、インターネットで公開する。
- (3) 留学生的危機予防のため、ブリーフィング、コンサルテーションを強化する。
- (4) 留学生向け宿舎確保は、混住型学生寮の整備を推進するが、当面は宿舎の借上げや宿舎提供サービスの外部委託などを検討する。

別紙

**活動を可能とするための学内体制の整備（今後1～2年）**

1. 国際連携推進センターに、プロジェクト形成や研究交流促進のために国際経験豊かな専任教員や事務職員を配置する。また、増大する業務に対応するため、国際連携推進センターが獲得した資金の中から、必要に応じて機動的に臨時スタッフを雇用して事務補助に当たらせる。留学生受入での宿舎手配などの定型業務は、可能な限り外部委託する。
2. 国際担当の専門人材を計画的に育成するため、事務職員の海外交流協定校への派遣等も含め研修プログラムを充実する。
3. 学術交流やプロジェクトの分野を絞り込み文理融合を進めるため、国際連携推進センターとして外部資金の獲得に努めるとともに、国際化のための戦略経費を増加する。国際化戦略経費は期限付きとし、あくまでも外部資金獲得の呼び水として使う。事業は毎年評価を行い、留学生獲得への貢献、外部資金獲得の努力等も評価項目に入れる。
4. キャンパスでの国際交流促進のため、他の地方国立大学並みに増床し、各教員の研究室の他に留学生交流スペース、留学生カウンセリングルームを確保する。
5. 高知大学海外事務所の整理と機能強化を進める。優秀な留学生の獲得、学術交流や共同研究の促進、同窓会の組織化と支援、国際協力プロジェクトの形成などの機能をもたせる。そのために、教員の派遣を伴う海外事務所の設置を検討する。
6. 海外での留学生同窓会組織を育成・強化し、海外へ派遣する本学留学生や教員との親睦を深め、高知大学の最新情報、最新の研究成果の情報を提供する。同窓会ネットワークを活用して、本学の広報と留学生の募集への協力等を依頼する。
7. 学内各部局の国際連携を促進するために、全学的な国際戦略を明確化して外部公開するとともに、部局ごとの国際戦略策定を促進する。国際連携推進センターは全学的な国際戦略策定の事務局となるとともに各部局の策定を支援する。
8. センターには各部局からの兼務教員を置き、情報共有を促進する。

## 1. はじめに

国際連携推進センター  
センター長 新納 宏

### 国際協力の盛んな大学

2017年4月18日、北欧4カ国とアメリカの協定校から5人の研究者が高知に集まり、インクルーシブ教育に関する各国のテーマを話し合いました。これは、当センターが教育学部と協働で実施している中南米諸国の行政官対象の国際研修「インクルーシブ教育実践強化」に合わせて行ったものです。この研修員15人を含めると4大陸から21人以上の専門家が集まることになります。インクルーシブ教育についてこれだけ多くの世界の専門家が一堂に集まり話し合う機会は国内でも初めてと思われます。フロアには県内の特別支援学校や通常学校の担当教員、教育委員会などの実務者も参加しました。この分野は欧米・日本・中南米とそれぞれの進捗が異なるため、参加者は互いの取り組みや課題を情報交換できて大変参考になったとの感想を述べていました。

このような地域課題にも対応した国際セミナー・研修は本学の国際戦略の2つ目の柱、「地域資源を活用した国際協力にチャレンジし、地域の国際化に貢献する。」を具体化したものです。高知大学は2017年度にこのほかにも「へき地教育振興」「コミュニティ防災(B)」「島嶼国総合防災(B)」の3件の開発途上国向け国際研修をJICAから受託して実施し、合計43名の研修員を受入れました。

2017年度から高知大学は高知県梼原町と協働し、2015年末曾有の地震に襲われたネパールで、蛇籠を使った復興支援を開始しました。これはJICAから受託した草の根技術協力「ネパール防災と環境を両立させる現地適応型蛇籠技術普及事業」で実施しているものです。「蛇籠」とは、メッキ鉄線の金網籠の内部に中詰材（石、岩）を詰め、斜面を補強する土木構造物です。本学の理工学部の教員や梼原町の石工を派遣し、現地に適した蛇籠の技術を、実証実験を行いながら先方に伝えています。

このように高知大学は国際交流のみならずアジア・大洋州を始めとした開発途上国への国際協力を強く推し進めています。

### 留学生受入・派遣の取り組み

留学生受け入れでは体験型の「地域文化理解」講座を始めました。これは受入留学生を対象に「日本語総合」コースの一環として、地域課題を体験し、留学生の目から地域活性化を考えもらおうというねらいで開講したものです。留学生は中山間地で茶摘み体験をしたり、地域の神社のお祭りに参加したりして、高齢化が進む高知の地域振興について考えました。

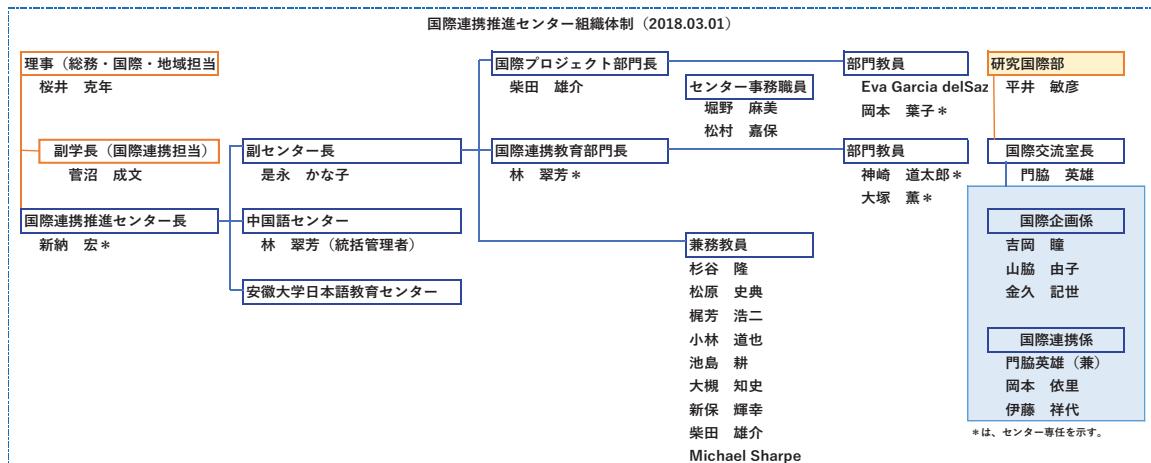
共通教育の正課として開講した「グローバル・コミュニケーション」は、オーストラリアのクイーンズランド大学での5週間の英語研修を核に、7人が英語でのコミュニケーション手法を学びました。参加者の大半は今後長期留学を希望する学生でした。

当センターの主な試みについて、概要を記述しました。これらの活動は「国際戦略」や「第三期中期計画」に基づいて企画し、試行してきたものです。「地域の大学」（Center of Community）である本学の国際化は地域と結びついてのみ達成できるとの考え方から、一貫して計画的な事業開発を行っています。

引き続き当センターへのご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 2. 組織・スタッフ（組織図、スタッフ紹介）

### (1) 組織図



### (2) スタッフ紹介

副学長（国際連携担当）

菅沼 成文

国際連携推進センター長

新納 宏

副センター長

是永 かな子

#### 【国際プロジェクト部門】

国際プロジェクト部門長

柴田 雄介

国際プロジェクト部門専任教員（助教）

GARCIA DEL SAZ EVA

国際プロジェクト部門専任教員（特任講師）

岡本 葉子

#### 【国際連携教育部門】

国際連携教育部門長・専任教員（教授）

林 翠芳

国際連携教育部門専任教員（准教授）

神崎 道太郎

国際連携教育部門専任教員（准教授）

大塚 薫

#### 【研究国際部国際交流室】

国際交流室長/兼国際連携係長

門脇 英雄

#### 【国際企画係】

国際企画係長

吉岡 瞳

国際企画係員

山脇 由子

国際企画係員

金久 記世

#### 【国際連携係】

国際連携係主任

岡本 依里

国際連携係員

伊藤 祥代

#### 【国際連携推進センター】

国際連携推進センター係員

堀野 麻美

国際連携推進センター係員

松村 嘉保

### 3. 活動状況

#### 3-1 国際交流

##### (1) 講演会

###### ①講演会&ワークショップ「留学生と地域との交流」を開催

日時：平成29年6月3日

概要：高知大学国際連携推進センター主催の講演会及びワークショップが行われました。

学校法人エール学園理事長の長谷川恵一氏を講師としてお招きし、「グローバル人材としての留学生教育と就職支援」を演目としてお話を頂きました。当日は県内外から日本語教育に関わる方々のほか、留学生、日本人学生、高知大学教職員が参加されました。

講演会では、留学生の就職率がほぼ 100%というエール学園で取り組まれている 3 種類のインターンシップ活動について説明がありました。「なりたい自分、つくす自分」をミッションとして掲げる学園では、まず社会貢献型インターンシップと呼んでいる地域のボランティア活動に留学生が参加し、「つくす自分」を経験することをベースとして、「なりたい自分」を実現するために、キャリアアップ型インターンシップ、採用選考型インターンシップと段階を踏むことで企業と留学生のミスマッチを防ぐことが重要との経験が語されました。

ワークショップでは「日本文化を理解するための留学生ボランティアワーク」というタイトルで、留学生が日本企業に就職する為のインターンシップや地域イベントのサポート、企業とのつながりを構築する学校の取り組みや工夫についてのディスカッションが行われました。学園では留学生に対してメンター教育を実施しており、教師とは別にメンターを配置し、学業面だけではなく、その先の就職につながるようサポートしているといった興味深いお話をありました。それに対し参加者からメンターと教師との役割分担、メンターと留学生の比率についての質問が寄せられました。

今回の講演会及びワークショップの参加者からは、「メンター教育、インターンシップについての内容はとても興味深かった」、「日本で就職したい者として大変役に立つ内容であった」、「地域と密に連携を取って留学生の就職支援を行う姿勢に感動した」、「留学生の日本語教育→地域交流→就職へつなぐ取組みは大変参考になった」等の感想が寄せられました。



<講師 長谷川恵一 エール学園理事長>



<講演会の様子>



<ワークショップの様子>

## ②特別講演会「日本とアフリカの関係」を開催

日時：平成29年11月13日

概要：高知大学国際連携推進センター主催の駐日エチオピア連邦民主共和国大使チャム・ウガラ・ウリヤトゥ閣下による本学学生等に対する特別講演会「日本とアフリカの関係」

を開催し、日本人学生、留学生の他、教職員、一般の方など約120名が参加しました。

講演会では、まず、日本主導で開始した「アフリカ開発会議（TICAD：Tokyo International Conference on African Development）」の歩みなどを例に、アフリカ地域開発事業などについて日本の貢献やエチオピアとの両国関係構築の歴史などが紹介されました。次に、エチオピアの国を挙げた工業団地の開発、急速かつ持続可能な経済成長を遂げていることなどについての説明があり、講演後の質疑応答においては学生より活発な挙手があり、同国への強い関心が覗えました。

<Cham Ugala Uriat 駐日エチオピア大使>

明があり、講演後の質疑応答においては学生より活発な挙手があり、同国への強い関心が覗えました。

会場参加者からは、「アフリカには普段あまり馴染みがなかったが、エチオピアのことを知ることができ身近に感じることができた」「アフリカ地域への強い可能性を感じた」等の感想が寄せられました。



<チャム大使による講義>



<学生との質疑応答>

## （2）学長表敬訪問等

### ①インドネシア、フィリピン（ビコール地方）の大学等関係者による学長・理事表敬訪問

日時：平成29年7月24日

概要：本学博士課程である黒潮圏総合科学専攻主催の「第11回黒潮圏科学国際シンポジウム」に参加するため来学したインドネシアのタンジュンプラ大学、また、フィリピンのビコール地方の7大学・1機関の学長等関係者が脇口学長及び櫻井理事（総務・国際・地域担当）を表敬訪問しました。

まず、本学の協定校であるタンジュンプラ大学からは、森林学部長、同副学部長が、櫻井理事を表敬訪問しました。タンジュンプラ大学とは、同大学出身の学生が黒潮圏総合科学専攻に在籍しているほか、本学地域協働学部にて交換留学生を受け入れるなど、活発な学生交流が行われており、今後の更なる交流の強化について話し合われました。

続いて、フィリピンのビコール地方にある7大学・1機関（ビコール大学、パルティド州立大学、カタンドネアス州立大学、ソルサゴン州立大学、南カマリネス科学技術大学、ビコール州立応用科学技術大学、エミリオ・B・エスピノーザ・シニア博士記念州立農業・技術大学、フィリピン農業省漁業・水産資源局第2地域支所）の学長等関係者が脇口学長を表敬訪問しました。脇口学長からは、「本学は東南アジア・黒潮流域圏の国々との交流を重視している。科学を通して世界の海や自然環境を守るために、共に手を携えて協力していきたい。」との挨拶がありました。またビコール大学のVictor Salcedo Soliman副学長と、パルティド州立大学のRaul Giga Bradecina学長は、本学で論文博士号を取得しており、本学の歓迎に対して御礼が述べられました。今回参加した7大学はすべてビコール地方の州立大学であり地理的にも近いことから、今後も本シンポジウムをきっかけに一層の連携を強化し、また本学との交流においても、そのネットワークを活かしていきたいという今後の発展的交流が期待される内容で締めくくられました。



<フィリピンビコール地方8機関の学長表敬>



<タンジュンプラ大学森林学部長の理事表敬>

## ②ベトナム・ゲアン省訪問団一行による櫻井理事表敬訪問

日時：平成29年8月21日

概要：ベトナムのゲアン省より、政府系及び民間の農業関係の会社の会長ら9名が櫻井理事（総務・国際・地域担当）を表敬訪問されました。今回の訪問は、南国市の企業が、JICAの中小企業支援事業「普及・実証事業」の一環で、ベトナム政府農薬登録局審査部長や実証事業を実施しているオレンジ農園会長などの現地関係者を招へいし、この機会に高知県副知事や本学理事を訪問したものです。



今回の表敬訪問ではまず、櫻井理事より、「ベトナムは気候・風土が高知とよく似ている。農業においては、技術そのものよりも現場に適合するかどうかが大事である。高知のこともよく知っていただき、協力できる方法について考えるきっかけになればと思っている。」との歓迎の挨拶がありました。また訪問団を代表して現地オレンジ農園会長のNguyen Quoc Tuan氏より「高知大学は農業に関する優れた研究を行っていると聞いており、今回訪問できて光栄である。」とのお礼の言葉が述べられました。

その後の懇談では、日本の高級ブドウ品種をベトナムでも栽培するにあたって、高知大学のハウス栽培技術の指導をいただきたいとの希望がありました。櫻井理事からは、本学の研究者が現地指導に行ったり、本学でベトナムからの留学生を受け入れるなどの協力が可能ではないかとの回答があり、今後の技術協力に向けた第一歩となる内容の訪問となりました。

## ③SUIJI国内サービスラーニングプログラム学生の理事表敬訪問

日時：平成29年8月30日

概要：インドネシア（ガジャマダ大学3名、ボゴール農業大学4名、ハサヌディン大学3名の計10名）とマレーシア（プトラ大学6名）からサービスラーニングプログラム（以下、SLP）受講のため高知を訪れている留学生及び本学学生の計12名が、櫻井理事（総務・国際・地域担当）を表敬訪問しました。

櫻井理事による歓迎のあいさつの後、続いて新納国際連携推進センター長より新聞メディア等での報道など本SLPの活動が高知県内で広く知られていることの紹介がありました。次に、履修学生を代表して安田サイトで活動しているマレーシアのプトラ大学のSiti Zubaidah Jamaluddinさん及び室戸サイトで活動しているボゴール農業大学のSofa Zuhad Mudawamさんから活動報告があり活発な意見交換などが行われました。

一行は滞在中、愛媛大学グループや香川大学グループのSUIJIサービスラーニング履修者と合流し、最終成果報告会においてサービスラーニングで得た知見を発表し、他大学グループの学生らと交流する予定です。



<全体集合写真>



<櫻井理事による歓迎の挨拶>



<プトラ大学のSiti Zubaidah Jamaluddinさん>



<ボゴール農業大学Sofa Zuhad Mudawamさん>

\*SUIJI (Six-University Initiative Japan Indonesia) とは、上記インドネシア3大学と四国3大学の6大学のコンソーシアムで、熱帯地域における農業発展に関する教育研究を協働で進めることを目指すものです。

#### ④中国・安徽大学訪問団による学長表敬訪問

日時：平成29年10月20日

概要：協定校の安徽大学から、李仁群 校務委員会主任ほか5名が脇口学長を表敬訪問しました。まず、脇口学長から「安徽大学とは2002年の協定締結以来、活発な学術・学生交流を続けており、非常に親交の深い協定校である」との歓迎の挨拶がありました。また李校務委員会主任からは、「これまで有意義な交流ができたことは高知大学の先生方のご尽力のおかげである。両大学の交流は、友好提携を結んでいる安徽省と高知県の交流においても、重要な貢献となっている。」との言葉が述べられました。



<集合写真>

また両大学の各学部からも学部長や教員が出席し、既に交流が盛んな人文・教育分野だけでなく、理工学・農学等の自然科学分野での交流の可能性も考えていきたいとの今後の更なる結びつきを期待する表敬訪問となりました。



＜李校務委員会主任と脇口会長＞



＜意見交換の様子＞

## ⑤駐日エチオピア大使による学長表敬訪問

日時：平成29年11月15日

概要：チャム・ウガラ・ウリヤトゥ駐日エチオピア特命全権大使が、脇口学長を表敬訪問されました。まず脇口学長から、「この度の本学への訪問に感謝している。本学とアフリカの交流は始まったばかりであるが、今後具体的にエチオピアの大学との研究交流などの可能性があれば、是非検討していきたい。」との歓迎の挨拶がありました。

また、チャム大使からは、「今回の表敬訪問に先立ち、朝倉キャンパス学生へ『日本とアフリカの関係』について講演を行うことができたほか、医学部で最先端の施設等を見学させていただけたなどのもてなしを受け、大変感銘を受けた。エチオピアでは理系分野の教育に重点を置いた政策を取っており、海洋コアや農学の分野での研究も優れている高知大学を訪問できて光栄である。」との言葉が述べられました。

チャム大使がこれまでの日本のアフリカへの貢献に謝意を表されるとともに、今後の日本とエチオピア及びアフリカとの交流の発展を期待する内容の会談となりました。



＜表敬訪問の様子＞



＜集合写真＞

## ⑥「海外フィールドサイエンス実習」参加者による理事表敬訪問

日時：平成29年12月6日

概要：本学農林海洋科学部が毎年実施している「海外フィールドサイエンス実習」に参加するため来日したタイ（カセサート大学、コンケン大学）、ベトナム(ハノイ教育大学)、マレーシア(マレーシアサラワク大学、マレーシアプトラ大学)からの学生21名及び引率教員3名の計24名が、櫻井理事（総務・国際・地域担当）を表敬訪問しました。

この「海外フィールドサイエンス実習」は、本学が協定締結している東南アジアの

大学との学生相互派遣事業の一つで、農学・林学・水産学・環境学等を学ぶ学生に対して、我が国の最先端の科学技術と伝統技術を組合せた農林水産業の取組み、自然資源の利用・管理技術等を紹介し、科学技術に対する関心や理解を深めてもらい、農林水産業の将来を担う人材育成を図ることを目的とするものです。

本年度は、12月5日から12月14日までの10日間で、JST（科学技術振興機構）の「さくらサイエンス事業」の資金支援も得て実施されました。

表敬訪問では、櫻井理事より、「高知大学はこれまで東南アジアの大学と活発な学術・学生交流を行っており、今回の皆さんの訪問を歓迎する。これを機に高知大学に一層の興味を持っていただき、今後の各大学との更なる関係強化に繋がることを期待している。」とのメッセージが送られました。

※JST（科学技術振興機構）「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」（「さくらサイエンスプラン」）は、産学官の緊密な連携により、優秀なアジア地域の青少年が日本を短期に訪問し、未来を担うアジア地域と日本の青少年が科学技術の分野で交流を深めることを目指します。そしてアジア地域の青少年の日本の最先端の科学技術への関心を高め、日本の大学・研究機関や企業が必要とする海外からの優秀な人材の育成を進め、もってアジア地域と日本の科学技術の発展に貢献することを目的としています。

（さくらサイエンスプランのホームページ<http://ssp.jst.go.jp/outline/index.html>から引用）



＜表敬訪問の様子＞



＜集合写真＞

## ⑦中国・安徽大学訪問団による高知大学視察

日時：平成29年12月7日

概要：公益財団法人高知県国際交流協会が受け入れ機関となって実施している国立研究開発法人科学技術振興機構の招へい事業である「さくらサイエンスプラン」事業の一環として、本学協定校の中国・安徽大学から、学生16名と引率教員2名が本学朝倉キャンパスを視察しました。

一行は高知県の姉妹都市である安徽省からの訪問団で、今回は県内の南海地震対策等の県内防災施設の見学を中心に学習しています。本学では、新納国際連携推進センター長より「高知大学の国際的な防災協力」の講演を行い、笠原防災推進センター長からは「高知大学の防災推進センター」について紹介をしました。講演後には安徽大学の学生から活発な質問が飛び交い、大学における防災研究・教育について学びを深めました。

その後、本年10月より安徽大学より交換留学生として本学に受け入れている学生らとの交流昼食会を行い、高知での留学生活などについて情報交換を行いました。昼食

後には朝倉キャンパス内視察、本学大学院生による案内にて理工学部にあるサイエンスギャラリーの見学を行いました。

参加者からは、「昨日までの県内視察で見聞きしたことが大学でどのような事業や研究に繋がっているのかについて知ることができてよかったです」「学生目線での留学生生活を聞くことができ大変参考になった」などとの感想が聞かれました。



<集合写真>



<新納国際連携推進センター長による講演>

### (3) JICA委託事業

#### ①JICA課題別研修「インクルーシブ教育実践強化コース」を実施

日時：平成29年4月13日～4月28日

概要：JICA課題別研修「インクルーシブ教育実践強化」コースを実施しました。

この研修コースは政府開発援助(ODA)の一環として、独立行政法人国際協力機構(JICA)

から国際連携推進センターが受託して実施したもので、教育現場での視察を通じ、自国で応用できる支援インクルーシブ教育推進策を修得することを目的とし、中南米6か国（ウルグアイ、コスタリカ、ドミニカ共和国、パラグアイ、ベネズエラ、ボリビア）からこの分野に携わる行政官や現職教員15名を招き行いました。

研修ではインクルーシブ教育の専門家



による講義を通して、日本のインクルーシブ教育および特別支援教育の制度について理解を深め、日本と自国を比較することで、自国の課題整理に繋げることができました。また、教育学部附属特別支援学校や高知市立行川学園等を訪問し、指導内容や方法を実際に学び、また児童生徒との交流を通じて、日本のインクルーシブ教育及び特別支援教育の姿を実感して頂きました。



コミュニティ、県、大学の連携について学んだ。また、学校の計画レベルもすばらしい。各活動が考え方や戦略に裏打ちされている」「学校視察を通して、先生や生徒との関わり方、教室での指導方法・カリキュラム、そして作業学習等を学んだ。自国での実用的な模範となるので、大いに役立てたい」など、満足度の高い感想が寄せられました。

高知大学は、来年以降も高知県内の教育機関と連携してインクルーシブ教育に関する国際研修を行う予定です。



## ②JICA課題別研修「“子どもの学びを保障する”へき地教育の振興—SDGsの達成に向けて」を実施

日時：平成29年6月9日～6月23日

概要：高知大学は、独立行政法人国際協力機構よりJICA課題別研修「“子どもの学びを保障する”へき地教育の振興—SDGsの達成に向けて」を受託し、本学朝倉キャンパス等で同研修を実施しました。

本研修コースは、政府開発援助（ODA）事業の一環で、へき地教育に携わる開発途上国の行政官や現職教員などを招き、日本における同教育の現状や取組を学ぶことを通して、“子どもの学びを保障する”ための自国の抱える課題に対する解決方法を見出すことを目的としています。

2014年から年1回実施し、4回目となる今回は、15か国19名の研修員の参加があり、大学キャンパス内のみならず地域の小学校（仁淀川町立長者小学校、本学教育学部附属小学校）などにおいて、講義で学んだ教育行政や教育制度の理論を実践する場を視察しました。実際の教育現場で行われている複式学級の指導方法を体験的に学び、理論と実践の組み合わせによる参加型学習を取り入れた研修設計となっていることなどについて、研修員による事後アンケートの結果等でも高い評価を得ております。

研修最終日には、本研修での学びの成果をどう還元し、どのように実践していくのかについて、研修員自身がその行動計画を発表しました。このプレゼンテーションでの発表内容は、研修員が帰国後にそれぞれの教育現場での課題解決のために活用し、各国のへき地教育の振興の一助となることが期待されています。

本学は、今後も続き地域の皆様にご協力いただきながら、SDGsの達成に向けて、よりよい国際研修の実施を目指していきます。

※SDGs・・・Sustainable Development Goals

2015年9月、ニューヨーク国連本部において開催された「国連持続可能な開発サミット」において、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ（2030アジェンダ）」が採択され、「誰一人取り残さない—No one will be left behind」を理念として、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針として、17の目標として設定されたもの。

### ③JICA 課題別研修「島嶼国総合防災行政（B）」コースを実施



パプアニューギニア、トンガ)、カリブ 6 カ国 (バハマ、グレナダ、ガイアナ、ジャマイカ、セントルシア、セントビンセント、) 及びインドのニコバル諸島の合計 12 か国から 16 名の行政官を招いて行われます。

神戸市では、研修員はまず各国の防災の現状・課題を分析、発表し、情報共有を行いました。その後、「人と防災未来センター」で阪神・淡路大震災等の展示を視察、また、



町村の防災対策についての講義を聞き、高知市や室戸市では住民による自主防災の取組を視察しました。

高知市では津波に対する三重防御施設、中土佐町では久礼小学校での防災教育、奈半利川では砂防ダムや蛇籠を活用した河川防護を視察するなど、主に津波や土砂災害対策に関する取組を学びました。

研修コースの最後には、それぞれの研修員が日本で学んだ知見を自国に応用して防災対策の行動計画（アクションプラン）の発表を行い、災害情報の住民への周知方法、施設の耐震化、避難場所や経路の構築及び周知、など多岐にわたる提案が行われました。

研修員からは、「一人一人が防災に対する危機意識を持ち、市町村がきちんとした防災対策をとっていることが素晴らしい」、「地元のコミュニティが災害への意識を高め、

日時：平成 29 年 8 月 16 日～9 月 21 日

概要：JICA 課題別研修「島嶼国総合防災行政（B）」コースを神戸市、宮城県、高知県において様々な防災手法に焦点を当てた講義・視察・発表を行いました。

この研修コースは、政府開発援助（ODA）の一環として、独立行政法人国際協力機構（JICA）から受託して行うもので、大洋州 5 カ国（フィジー、ミクロネシア、ニウエ、



コミュニティでの自主的防災活動に関する消防局の講義を通して、コミュニティ防災への取組について知見を深めました。

宮城県では、仙台市、東松島市、南三陸町、気仙沼市の東日本大震災被災地を訪問し、行政担当者、被災者、住民組織から復興状況や今後の防災対策の話を聞くとともに、現場を視察しました。

最後に高知県に移動し、県、気象台、市



日ごろから訓練しているところに感動した」といった感想が寄せられました。

高知大学では11月から12月にかけても「コミュニティ防災」に関する国際研修を行います。また、来年度も引き続き防災に関する国際研修を実施し、地域の知見を海外に発信する取り組みを続けていきます。

#### ④独立行政法人国際協力機構（JICA）課題別研修「コミュニティ防災（B）コース」を実施

日時：平成29年11月7日～12月17日

概要：7か国（バルバドス、コモロ、モーリシャス、パプアニューギニア、ミクロネシア、スリナム、バヌアツ）より8名の防災担当行政官を招き、11月7日（火）から12月17日（日）までの6週間にわたり、国や県、市町村など自治体による防災対策や、自主防災組織など地域住民を主体とした防災（コミュニティ防災）の取組み等について学んでもらう「コミュニティ防災（B）コース」を実施しました。

研修ではまず、神戸市のコミュニティ防災への取組み紹介や、宮城県塩竈市及び石巻市の東日本大震災被災地の復興の現状観察等、大規模震災から防災対策の重要性を強く意識してもらいました。

また、11月25日（土）、26日（日）には、世界防災フォーラム及び同時開催された防災推進国民大会並びに防災産業展に参加してもらい、世界の防災への取組みについて、研修員の知見を深めました。

さらに高知県では、本学教員や行政職員による自治体と自主防災組織の連携等についての講義及び大規模津波を想定した港湾の多重防御対策や津波避難タワーなどインフラ対策の観察などにより、防災対策の必要性について理解を深めてもらうことができました。研修の最後には、研修からの学びを応用して自国の防災対策を改善するためのアクションプランを作成し、発表会では多岐にわたる提案がなされました。

高知大学では、今後も引き続き国際研修を実施し、地域の知見を海外に発信する取り組みを続けていきます。



#### (4) 外国人留学生ネットワーク

##### 高知大学帰国留学生ネットワーク事業合同同窓会 2017

日時：平成 29 年 11 月 4 日

概要：朝倉キャンパスにおいて、高知大学帰国留学生ネットワーク事業として「中国・タイ・北欧の合同同窓会」を行い、帰国留学生および現在本学に留学中の学生、本学教職員、また一般を含む約 80 名が参加しました。

まず、櫻井理事（総務・国際・地域担当）より「おかえりなさい」と「ただいま」という日本語の歓待の表現についての説明後、理事による「おかえりなさい」という歓迎の挨拶に呼応し、参加者全員で声を合わせ「ただいま」と日本語の挨拶を行い会場全体が温かな雰囲気に包まれました。

続いて、和やかな雰囲気となった会場において、中国、タイ、スウェーデン出身の 3 名の元高知大学生による「同窓会と高知大学との連携」と題した各々の同窓会の役割についてプレゼンテーションを行い、SNS を活用した同窓会のネットワーク化により帰国留学生の就職支援を行っているなどの活動について報告がありました。また、「本学の元留学生」としてのつながりに留まらず、大学間の研究交流として、帰国後により一層の発展的交流につながっている事例の紹介などもあり、今後の更なる本学との連携についての期待のメッセージが述べられました。

講演会の終了後には、本学とのネットワーキングについて情報交換を行うとともに今後の大学との連携についての可能性などを探るための意見交換会を行い、懐かしい顔ぶれの元留学生と未来の卒業生（同窓会員）となる現在の本学留学中の学生、また教職員らと共に懇親を深めました。



〈講演会開始前の趣旨説明（打ち合わせ）の様子〉



〈中国同窓会（曾慶偉さん）による講演〉



〈講演者（3名）と本学理事・教職員〉



〈集合写真〉

### 3-2 留学生交流

#### (1) 留学生交流事業

##### ①カルチャーカフェ

###### 第18回カルチャーカフェ

日時：平成29年4月19日

概要：「モンゴル」をテーマに、留学生24名、日本人学生11名、地域の方3名等の約40名が参加しました。各国の留学生、海外に興味がある日本人学生や地域の方々がモンゴルについてディスカッションやゲームをし、大変有意義な異文化交流が行われました。

はじめに、モンゴル出身留学生のチングスダライ トールさん（人文社会科学部）より、モンゴルの歴史、言語の成り立ち、ライフスタイル等についてクイズを交えながらプレゼンテーションを行いました。また、他のモンゴル出身の留学生と一緒にモンゴルの民謡を歌ってくれました。

テーブルにはモンゴルで一般的な塩入りミルクティー、モンゴルでよく食べられているレーズンバターライスや揚げドーナツ、ダニッシュ風揚げパンが用意されモンゴルの軽食を堪能しました。最後に牛や羊のくるぶしの骨を使いみんなで日本のおはじき遊びに似たゲームを楽しみ、大いに盛り上りました。



<イベントの様子>



<プレゼンテーションの様子>

###### 第19回カルチャーカフェ

日時：平成29年5月17日

概要：「イタリア」をテーマに、留学生19名、日本人学生19名、高校生2名、地域の方8名の48名が参加しました。各国留学生や、海外に興味がある日本人学生、また地域の方々が、イタリアについてディスカッションやゲームをし、イタリア文化を知る事が出来る異文化交流が行われました。

はじめに、サッサリ大学出身の留学生4名が、イタリア、主にサッサリ大学のあるサルデニヤ島の歴史、地理、ライフスタイル等についてプレゼンテーションを行いました。日本のあやとりがイタリアでも子供の遊びとして親しまれ、参加者も手から手へ取り方を教え合いながら楽しみました。



<プレゼンテーションの様子>

エスプレッソコーヒーとともに、イタリア発祥のティラミス、ピザ、餃子のような形をしたサルデニヤ島伝統のパスタ「ク

ルルジョネス」というパスタを試食しました。最後にクルルジョネスを参加者と一緒に実際に作りました。それに参加した留学生は、具を包む際に作る皮のひだに苦戦していましたが、とても楽しそうに取り組んでいました。

センターとして今後も参加者全員で楽しめ、交流できる内容を多く盛り込んだイベントを開催し、地域の方にも来て頂きやすい雰囲気づくりを心掛けたいと思います。



<クルルジョネス作りに挑戦>



<あやとり遊び>

## 第 20 回カルチャーカフェ

日時：平成29年6月21日

概要：「スウェーデン」をテーマに、留学生19名、日本人学生21名、教職員6名、地域の方5名、合計51名が参加しました。

スウェーデン出身の留学生2名がプレゼンテーションを行い、参加した留学生や、海外に興味がある日本人学生、地域の方々とグループごとに大統領を当てるクイズやスウェーデンに関する質疑応答が行われました。

スウェーデンの「夏」は短いため、毎年夏至の日には夏の到来を盛大に祝う祭りを開催しているそうです。今回の会場には、夏至の祭り会場の中心に置かれる色々な花で装飾された「メイポール」という柱のミニチュア版が設置され、カルチャーカフェ当日が「夏至」という事もありスウェーデンの雰囲気さながらに楽しむことが出来ました。また、スウェーデン人の主食であるジャガイモを使った料理と現地でよく飲まれている「エルダーフラワー」というマスカットのような爽やかな味わいのジュースが提供されました。そして、そのジュースを飲みながら「ヘランゴー」という乾杯の歌を参加者全員で歌い、スウェーデンのお祭りのような盛り上がりとなりました。



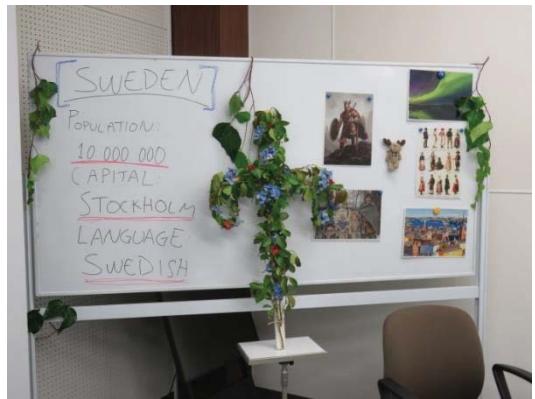
<プレゼンテーションの様子>



<フォークダンスを披露中>



<スウェーデンの家庭料理>



<ミニチュア版マイポール>

## 第21回カルチャーカフェ

日時：平成29年7月19日

概要：「カンボジア」をテーマに留学生9名、日本人学生9名、教職員4名、地域の方1名、合計23名が参加しました。

まず、カンボジア出身の留学生による、同国の歴史、食べ物、文化などについてプレゼンテーションがあり、なかでもカンボジアの伝統的なアプサラダンス（手の動きに特徴があり、きらびやかな衣装に身を包んだ女性たちの妖艶に踊り）や3日間夜通し行われる盛大な結婚式の映像を視聴しました。

そのダンサー達の繊細な指の動きや反り返った指から生まれる芸術に驚いていました。

また食べ物についてはヤシ類の花序や幹の樹液（パームシロップ、パームハニー）から採取できる砂糖である「パームシュガー」やカンボジアの塩辛とも呼ばれる魚のエキスから作るペースト状の「プラホック」など日本にはない調味料の紹介がありました。その後「ノムコウ」と呼ばれるパームシュガーやココナツミルク、アーモンド風味の緑豆が入ったペースト状のスイーツと、卵料理（黄身自身を一旦取り出し、それにパームシュガーやナンプラー等の調味料を合わせた後、再度殻の中に戻してオーブンで焼いたものに胡椒をつけて頂く）を試食しました。カンボジアの食文化を体験し、欧米のような甘ったるさではなくアジア人好みのあっさりした甘さでおいしかったという感想がありました。

今回のプレゼンテーションは始まりをインタビュー形式で行い、講師の場づくりについて参加者から新鮮だったと称賛の声が寄せられました。



<プレゼンテーションの様子>

## 第22回カルチャーカフェ

日時：平成29年10月18日

概要：「韓国」をテーマに留学生22名、日本人学生23名、学外者6名、合計51名が参加しました。

2名の韓国出身の留学生より、Chuseok (チュソク) と呼ばれる日本のお盆にあたる

有名行事の紹介、ソウル近郊にある南山等の美しい自然のある有名観光地、ドラマや美容整形など現文化事情について紹介がありました。

また、日本の甘酒のように甘くてコクのある韓国ではポピュラーな「シッケ」という消化を促す発酵飲料や、うるち米で作られた棒状の餅に甘辛いソースを絡めた「トッポッキ」、韓国風お好み焼き「チヂミ」を試食しました。韓国の代表的な即席麺「辛ラーメン」を茹で麺を碎いて付属の粉末をかけてそのままスナックとして食べる韓国人しか知らない食べ方も紹介してくれました。その他、テーブルマナーについて、お皿を持たずに食べる方法が韓国では行儀が良いとされる韓国文化と日本文化の違いに日本人学生から驚きの声があがりました。

流暢な英語で会場の笑いを誘う司会進行で韓国についてのクイズが出題され、なかなか正解が出てこなかった回答が導き出されたときは大歓声と拍手があがるなどの盛り上がりを見せました。



<プレゼンテーションの様子>



<韓国料理の試食>

## 第23回カルチャーカフェ

日時：平成29年11月15日

概要：「エチオピア」をテーマに今回は、東京よりチャム ウガラ ウリヤトウ駐日エチオピア特命全権大使が、夫人や大使館員とともに出席され、留学生30名、日本人学生20名、教職員22名、一般の方6名の合計78名が参加しました。

まず、エチオピア出身留学生が自国の文化等についてクイズを取り入れながらプレゼンテーションを行いました。

次にチャム大使から挨拶を頂き、コーヒーの発祥はエチオピアと言われており、「コーヒー」という言葉はエチオピアにあったコーヒーの産地カッファ (Kaffa) に由来する事などエチオピアのコーヒーについて紹介がありました。

その後、大使館の方によるコーヒーセレモニーの実演がありました。これは慣習で女性により執り行われ、生豆を煎るところから始まり、参加者もその豆をすり潰す手伝いをしました。併せて、エチオピア大使館関係者より、エチオピア伝統料理のビーフシチューのような「ドローワット(Doro-wot)」や「インジェラ (injera)」というパンが振る舞われました。

参加者からは、「高知では普段体験できない本格的なエチオピア文化に触れることができた」「エチオピア、アフリカがこれまでより身近に感じられ、興味を持つことができた」との感想が寄せられました。

今回のエチオピア大使の来高は、留学生が問い合わせた1本の電話から実現しました。

全面協力を頂いたエチオピア大使館の皆様に感謝申し上げるとともに、引き続きカルチャーカフェが、学生にとってより一層海外に関心を持つきっかけとなる事を目指します。



<チャム大使挨拶>



<プレゼンテーションの様子>



<コーヒーセレモニーの様子>



<エチオピア伝統料理>

料理提供：エチオピア大使館

## 第24回カルチャーカフェ

日時：平成29年12月20日

概要：「インドネシア」をテーマに、留学生13名、日本人学生13名、一般の方4名、教職員4名の合計34名が参加しました。

はじめに、インドネシア出身の留学生より歴史、食べ物、文化、同国の国章についての説明がありました。国章（下図参照）に使用されている「ガルーダ」という鳥の羽の数は、インドネシア独立宣言の日（1945年8月17日）にちなんで尾の付け根の羽（19枚）、首（45枚）尾の羽毛（8枚）、左右の翼（17枚）で描かれているそうです。

17,000以上とも言われている島、仏教、イスラム教、ヒンズー教、キリスト教など多様な宗教観を持ち、ジャワ人、バリ人、ボルネオ人など300以上の民族がいると言われている多民族国家のインドネシアで、その多様性の象徴として、インドネシアの建国5原則の一原則である「インドネシアの統一」という意味が含まれている帶を持っているなど、ガルーダは多様性の象徴として国民に慕われています。



<プレゼンテーションの様子>

また、インドネシアでポピュラーなネギやニンジンなどが入った韓国のチヂミのような味のBakwan（バックワン）、ニンジンや鶏肉が入った春巻きのような味のRisoles（リソレス）、ココナッツミルク、バナナ、サツマイモが入った甘酸っぱい複雑な味のKolak（コラック）を試食しました。

最後にインドネシアでポピュラーなゲームの紹介があり、腰に巻いたテープにペンを吊るし、ペットボトルの飲み口に通したら勝ちという運動会の種目のような「Insert Pencil Into a Bottle」というゲームを行いました。飲み口にペンが入った時には歓声が上がり大盛り上りました。



<ゲームInsert Pencil Into a Bottleに挑戦>



<インドネシア料理>

## 第25回カルチャーカフェ

日時：平成29年1月17日

概要：「日本」をテーマに留学生 11 名、一般の方 4 名の合計 15 名が参加しました。

最初に、日本人学生によりお正月遊び等が紹介され、参加者は準備された書道、かるた、けん玉、福笑い等を楽しみました。次の節分の紹介では、恵方巻きと豆まきの説明があり、今年の恵方である南南東を向いて実際に恵方巻きを無言で試食し、その後鬼に扮した日本人学生に向かって豆まきを行いました。

最後は、自分の書いた書道作品を持って記念撮影をしました。「日本の伝統的な遊びや行事を知る機会が得られて良かった」「日本人だが、節分やお正月について改めて知ることが出来て良かった」等の感想が寄せられました。



<プレゼンテーションの様子>



<書道体験>



<記念撮影>

## ②四国カルスト見学&樫原高等学校生徒との交流

日時：平成29年6月18日

概要：体験型授業「地域文化理解」の開発の一環として、朝倉キャンパス日本語クラスの受講生を中心に、四国カルスト見学&樫原高等学校生徒との交流を実施しました。この事業は、外国人留学生が地域の文化、歴史等を学び、体験し、地域への理解を深めるとともに、地域の高校生との交流さらには留学生間の親睦・交流を図ること



<四国カルストでの集合写真>

を目的としており、留学生26名、日本人学生3名、教職員4名が参加しました。

参加者は最初にカルスト学習館を訪れ、館長からカルストの地形が形成された歴史や四国カルストの特徴等について説明を受けたあと、館内の展示を見て回りました。カルスト学習館見学後、天狗荘で地元の食材を使った昼食を堪能しました。



<樫原高等学校生徒との交流>

その後、一同は天狗高原の展望台に行き、展望台から臨む白い石灰岩が点在する景観に感動し、巨大な風力発電プロペラや牛の放牧を前に盛んに写真を撮っていました。参加した留学生から「日本にも欧洲のアルプスのような場所があって、驚きました」、「四国カルストを見て、久しぶりにさわやかな気持ちになりました」、「雲の上に広がる風車が立ち並ぶ草原に立つと、まるで空の上に浮かんでいるかのような錯覚を受けました」等の感想が寄せられ、参加者一同四国カルストの美しい景色に見とれていました。

四国カルストの美しい景色をあとにし、一同は樫原町にある高知県立樫原高等学校に向かいました。樫原高等学校では、まず体育館で高校生による樫原町の紹介が行われ、その後、グループ活動で自己紹介、交流ワークシートに基づき、留学生から高校生にインタビューが行われた後、高校生のアイディアによるジェスチャーゲームで会場が一気に盛り上りました。最後に1時間ほどかけて、高校生による樫原町のツアーガイドが行われ、三嶋神社、町役場、樫原座、マルシェ等を回り、維新の門で合流して、高校側が用意してくれた飲み物、お菓子等を楽しみながら、さらに交流を深めました。高校生とは2時間程度の交流でしたが、高校生と留学生が互いにまた是非会いたいと名残惜しみました。

このような地元高校生との交流は初めての企画でしたが、留学生からは「高校生と一緒にツアーできるのは本当に楽しかった」「いろいろと話ができる、大変勉強になりました。高校生のことだけでなく、樫原町のことも大変印象に残った」「(高校生との交流の)時間が足りない」との感想が寄せられ、有意義な交流となりました。

なお、本事業は2017年度大学機能強化促進経費の支援を受けて実施しました。



<四国カルストについて説明を受ける留学生>



<維新の門で高校生と集合写真>

### ③外国人留学生課外研修

日時：平成29年11月11日

概要：11月11日（土）に、安芸市にて高知大学留学生57名と安芸桜ヶ丘高校および安芸高校の生徒52名が学生間交流を兼ねた2017年度外国人留学生課外研修を実施しました。

最初にじやこ加工工場を訪れて、加工されるまでの過程を見学し、また実際にじやこを天日干しする体験をしました。その後、15グループに分かれ野良時計や武家屋敷、地元の高校生が普段通う駄菓子屋等、高校生がグループごとに考えたルートを案内してもらい、高校生が留学生からは、「古い街並みや田舎の景色や美しい海岸線に感動した」「地元の高校生から詳しい説明を受けて安芸市の歴史についてよく知れたことが良かった」などの感想が寄せられました。その後の皿絵付け体験では、留学生に教えてもらった外国語の文字を書いてみるなど、個性的なお皿が作られました。最後にまち歩きをして見たこと、感じたことを話し合い本日の感想を漢字一文字で表し、「繋」「情」「和」などの漢字が上げされました。

両校の高校生からは交流後「互いの国の文化を共有でき、他国の文化についてより興味が湧いた」「英語と日本語を交えながら留学生と色々な話をして貴重な体験ができた」「留学生にまちを紹介することで改めて安芸市の良さを再認識した」などの感想が寄せられました。

留学生は、海に沈む夕日、田舎の田園風景、安芸市の歴史的建造物を見るだけでなく、安芸市の両校の生徒と親睦・交流を図るとともに、高知大学の他キャンパスに在籍している留学生同士の交流もでき、有意義な体験となりました。



<留学生と高校生の集合写真>



<じやこ天日干し体験>



<皿絵付け体験>



<グループ発表の様子>

#### ④第2回学長杯日本語スピーチコンテスト・交流懇談会

日時：平成29年11月29日

概要： 昨年に続いて2回目となる「高知大学学長杯留学生による日本語スピーチコンテスト」を開催し、本学で学ぶ10名の留学生が出場しました。学長をはじめ学内外の関係者のほか、日本人学生が運営する国際交流団体他、会場の参加者も審査に加わり、最優秀賞には「小説から見つけた日本」をテーマに発表した中国からの留学生 馬 芸文(マ ケイブン)さんが選ばれ、脇口学長からトロフィーが授与されました。

参加者からは、「留学生の日本語の流暢さに驚いた」、「緊張している中、一生懸命語る様子に勇気づけられた」、「外国人の観点でのスピーチの内容が面白く、もっと多くの人に聞かせてあげたいと思った」などの感想が寄せられました。

最後に、学内生協食堂で交流懇談会が行われ、留学生、日本人学生、教職員および学外関係者が、スピーチコンテストの感想を共有しながら交流を深めました。



<スピーチコンテストに参加した留学生と審査員>

## (2) 地域交流事業

### ①県立高知追手前高等学校にて留学生による「異文化理解講座」

日時：平成29年6月9日

概要：高知県立高知追手前高等学校の3年生対象授業において、「異文化理解講座」が開催され、本学の留学生9名が講師をつとめました。

本講座は、9つの教室各々で、インドネシア、ベトナム、中国、韓国、モンゴル、ネパール、スウェーデン、アメリカ、ロシアの9カ国の各留学生が(1)なぜ日本、高知を留学先に選んだのか(2)母国の代表的な衣食住の文化（人々の生活様式やその背景にあるものの見方）(3)母国の課題（経済、教育、社会政策等）について母国を離れて考えたこと、あるいは考え始めたことを高校生に投げかけ、一緒に考えてもらいました。

高校生らは、普段接する機会が少ない留学生の母国特有の文化や生活の話に真剣に耳を傾けて留学生からの講義を受けた後、積極的に質問をするなど活発な意見交換が行われました。本学としても地域貢献事業として高校生らが地域社会に生きる一人の市民としてこれから社会のあり方や自分にできること等について考えるきっかけになったことにより高校生の「異文化理解」につながったことを期待しています。

以下の写真は各教室の授業の模様です。



インドネシア



ベトナム



中国



韓国



モンゴル



ネパール



スウェーデン



アメリカ



ロシア

## ②教育学部附属特別支援学校主催 “留学生との交流会”

日時：平成29年12月2日

概要： 教育学部附属特別支援学校が主催する「留学生との交流会」に、ロシアからの留学生と、ウクライナからの留学生とその家族が参加しました。この交流会は、毎年、特別支援学校に通う生徒とその保護者が、留学生から出身国の話を聞いたりその国の代表的な料理と一緒に作ったりすることにより親睦を深めるもので、今回は教職員を含む27名が参加しました。

交流会では、まず留学生2名がロシアと、ウクライナの文化や気候などについて紹介しました。ロシアのアルファベットの説明では、子どもも大人も全員が大きな声で一緒に発音練習し、留学生の「よくできました！」に笑いが起こるなど、留学生と参加者の距離が縮まっていきました。

その後、3つのグループに分かれ、ロシアとウクライナの代表的な料理であるボルシチ、カツレツ、揚げポテト、アップルパイを作りました。ボルシチは「野菜をたくさん食べる」という文化がよくわかるレシピで、一人あたり2分の1本ほどもニンジンをすりおろすことに驚きの声があがりました。またカツレツは日本のハンバーグと同じようなレシピだったため、生徒が何度も「ハンバーグ」と言い間違えては、そのたびに先生に「“カツレツ”ですよ」となおされるのでまた笑いが起きていました。

食事の時間は、留学生の家族や食生活にも話題が広がり、またおかわりをする人もいたりと、おいしく楽しい時間となりました。

交流会の最後には、生徒からお礼の言葉とともに、生徒が授業で作った木工作品などが手渡され、留学生も「今日はとても楽しかった。ありがとう」と喜んでいました。



<ロシアとウクライナの紹介>



<ロシア語の発音に挑戦>



<おいしく戴きました>

### ③朝倉小校区青少年育成協議会主催料理教室「インドネシア料理に挑戦」

日時：平成29年1月20日

概要：朝倉中学校の生徒を対象にした料理教室（主催：朝倉小校区青少年育成協議会）が、朝倉ふれあいセンターで開催され、本学の留学生が講師として参加しました。今回のテーマは「インドネシア料理に挑戦！」で、本学のインドネシアからの留学生、ジャスリニアさん、エリクソンさん、ヴィヴィさん、アンドレさん、レノさんが講師に招かれ、「ナシゴレン(インドネシア風チャーハン)」と「バクワン(インドネシア風天ぷら)」、「コラク(ココナツミルクにバナナとさつまいもを入れた温かいデザート)」の作り方を指導しました。朝倉中学校の生徒たちは、料理の作り方の説明に熱心に耳を傾けた後、レシピを見て質問しながらインドネシア料理作りにチャレンジしました。料理はなかなかの出来栄えで、参加者全員で試食しました。試食の前にインドネシア語の簡単な挨拶も紹介され、皆で「セラマッ マカン (いただきます)」と言ってから、自分たちで作った力作を味わいました。中学生からは「インドネシア料理はどんなものか想像ができなかったけれど、甘辛いソースが癖になる。ボリュームがあっておいしい」、「レシピを見ながら早速、家でも作りたい」との感想が寄せられました。インドネシアの学生からは「皆さんとお話ししながらおいしい料理が作れて楽しかった」との感想がありました。当日は中学校の生徒たちだけでなく、朝倉中学校の先生及び青少年育成協議会のメンバーも参加し、食を通じて国際交流、異文化理解を図ることができました。



#### ④夏休みこども教室（高知市立はりまや橋小学校）

日時：平成29年7月25日（火）8:30～12:00

（打ち合わせ：平成29年7月24日（月）13:30～16:30）

概要：ALT(Assistant Language Teacher) や留学生がキャプテンとなり、高知市内の児童60名とグループを作り、ゲームやアクティビティを行いました。本学よりアメリカ出身の留学生が1名参加しました。

#### ⑤「日本の伝統の暮らし体験」（大豊町）

日時：前期：平成29年8月

後期：平成29年12月、平成30年1月

概要：大豊町の家庭に1泊2日の日程で宿泊し、食事の準備や宿泊する家庭の家業を手伝う事で山の暮らし体験を行いました。前期は3グループ10名、後期は5グループ13名の計23名が参加しました。

##### 前期

参加日	8月7日	8月15日	8月15日
参加人数	4名	3名	3名
参加国	中国2、台湾2	台湾2、中国1	中国3

##### 後期

参加日	12月9日	12月9日	2018年1月20日	2018年1月20日	2018年1月27日
参加人数	3名	2名	1名	3名	4名
参加国	インドネシア3	インドネシア2	スウェーデン1	スウェーデン2、韓国1	中国4

#### ⑥高知南高等学校国際科インターナショナルデイ

日時：平成29年12月14日

概要：文化の多様性に主眼をおき、英語圏以外の文化を学ぶことを目的としたワークショップが、高知南高等学校のインターナショナルデイに開催されました。本学より台湾出身の留学生が1名参加しました。

### (3) 留学生支援

#### ① 新入留学生オリエンテーション

日時：第1学期：平成29年4月7日、4月10日

第2学期：平成29年9月25日、9月26日

概要：

新入留学生オリエンテーションを第1学期は、4月7日と4月10日、第2学期は9月25日と9月26日に開催しました。各回の内容は下表のとおりです。また、オリエンテーションに合わせてウェルカムパーティーを開催し、新入留学生と在来留学生、日本人学生が情報交換するなど懇親を深めました。

平成29年度第1学期	平成29年度第2学期
第1回（平成29年4月7日） ○国際連携推進センター長挨拶・スタッフ紹介 ○留学生活についての諸注意 ○学生教育研究災害傷害保険の加入 ○銀行口座開設手続き※希望者のみ ○情報セキュリティ講習 ○防犯・交通マナー教室：高知南警察署	第1回（平成29年9月25日） ○国際連携推進センタースタッフ紹介 ○留学生活についての諸注意 ○学生教育研究災害傷害保険の加入 ○高知大学生活協同組合からの案内 ○えんむすび隊の紹介 ○銀行口座開設手続き※希望者のみ
第2回（平成29年4月10日） ○保健管理センターからのお知らせ ○高知大学生活協同組合からの案内 ○えんむすび隊の紹介 ○学生グループ「国際茶屋」の紹介 ○学生グループ「MC2」の紹介 ○防災講演：高知大学防災すけっと隊	第2回（平成29年9月26日） ○防犯・交通マナー教室：高知南警察署 ○保健管理センターからのお知らせ ○学生総合支援センターからのお知らせ ○学生グループ「国際茶屋」の紹介 ○防災講演：高知大学防災すけっと隊



## ② 帰国準備説明会

日時：第1学期：平成29年7月26日

第2学期：平成30年1月17日

概要：平成27年度第2学期より、留学期間を終えて帰国する交換留学生を対象として帰国準備説明会を開催しています。平成29年度は、平成29年7月26日と、平成30年1月17日に実施しました。

国際交流室担当職員から、学内手続き関係（帰国日時の連絡、帰国後の連絡先、貸出物の返却など）、市役所での手続き（住民票転出届及び国民健康保険証の返却）、銀行等での手続き（銀行（郵便局）口座の解約）、住居の手続き（宿舎等退去手続き、部屋の点検、家賃支払い、電気・ガス・水道代・インターネットの解約と支払い、部屋の片づけ、ゴミの分別・処分）、携帯電話の解約、在留カードの返還など、帰国前に留意しておいてほしいことについて、丁寧に説明を行いました。また、今後の留学生支援に活かすため、修学や生活上の良かったことや困ったことなどについてアンケートを実施しました。

最後に国際交流室から、留学終了後も帰国留学生ネットワークの活動やホームページ、Facebookなどを通じて、高知大学とのつながりを継続してほしいと伝えました。

#### (4) 短期プログラム（受入）事業

##### ①協定校向け英語によるサマープログラムの実施

日時：平成 29 年 7 月 4 日～8 月 5 日

(テキサス大学ダラス校は、別プログラム参加のため、7 月 9 日に東京へ移動)

概要：サマープログラムは、英語で日本語を学んだり日本文化体験ができる高知大学が主催するプログラムです。主な対象者は、高知大学の英語圏（または英語で教育を行っている）の協定校の学生です。平成 29 年度のプログラムには、国際連携推進センターと土佐さきがけプログラム国際人材育成コースで共同実施し、アメリカの 3 大学から計 19 名の参加がありました。国際連携推進センターからは主に文化体験プログラム、国際人材育成コースからは、以下の専門科目 3 科目の提供がありました。なお、いずれの科目もコース所属以外の学生にも開放されています。

##### 詳細

目的	本学と英語圏協定校との学生交流を活性化させる
内容	高知県や四国の見所を訪問しながら日本文化を体験し、日本語を学ぶ
参加者	テキサス大学ダラス校: 11 名 カリフォルニア州立大学フレズノ校: 4 名 ロードアイランド大学: 4 名
参加費	無料（施設入場料や宿泊費のみ実費を徴収）
滞在先	オリエントホテル高知（テキサス大学ダラス校）、短期賃貸集合住宅（カリフォルニア州立大学フレズノ校、ロードアイランド大学）
主催	国際連携推進センター、土佐さきがけプログラム国際人材育成コース

##### 提供専門科目

科目名: Japanese Studies I: Language 単位数: 2 授業種別: 講義 履修開始年次: 1 履修期間: 第 1 学期 時間割: 集中 区分等: 専門科目 担当教員: 石川	科目名: Japanese Studies II: Culture 単位数: 2 授業種別: 講義 履修開始年次: 1 履修期間: 第 1 学期 時間割: 集中 区分等: 専門科目 担当教員: 前西、シャープ	科目名: Japanese Studies III: Kochi Studies 単位数: 2 授業種別: 講義 履修開始年次: 1 履修期間: 第 1 学期 時間割: 集中 区分等: 専門科目 担当教員: 前西、シャープ
---	--	---

##### 成果

日本文化体験は、紙すきから参禅、うどん作りまで幅広く行った結果、深い日本文化理解につながりました。また、カリフォルニア州立大学フレズノ校とロードアイランド大学の学生は、5 週間滞在しながら土佐さきがけプログラム国際人材育成コースの専門科目を履修しました。高知大生とともに、日米それぞれ異なる視点から日本文化や歴史、地域の活性化等について英語でグループワークやプレゼンテーションを行ったことで、留学生のみならず高知大学の履修者にとっても貴重な国際共修の場となりました。

## 今後の課題

平成 29 年度現在、高知大生にとって英語圏の交換留学先の選択肢は豊富にあるとは言えません。既存の協定校との学生交流を継続するのみにとどまらず、新規留学先の開拓も叫ばれています。今後海外協定校における高知大学の認知度や存在感を高め、留学生の受け入れを増やしていくには、いずれは夏期集中プログラムの規模を拡大し、期間を拡張する必要があります。実現するには、実施・運営に携わる教職員の確保が課題となります。

## 主な訪問先

- |           |              |            |
|-----------|--------------|------------|
| ・いの町紙の博物館 | ・護国寺         | ・高知城       |
| ・高知城歴史博物館 | ・土佐山学舎       | ・龍河洞       |
| ・竹林寺      | ・牧野植物園       | ・ジョン万次郎資料館 |
| ・竜串海域公園   | ・旧金毘羅大芝居     | ・中野うどん学校   |
| ・金刀比羅宮    | ・うちわの港ミュージアム |            |



## ②対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」

日時：平成 30 年 3 月 16 日

概要：対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」※招へい事業の一環として日系米国大学生 23 名が高知県を訪れ、高知大生 14 名と高知市街歩きで学生交流を行いました。はじめに、朝倉キャンパスで新納国際連携推進センター長による歓迎の挨拶と高知県の概要説明があった後、参加学生は 6 つのグループに分かれ高知市中心部に繰り出しました。街歩きは、予め点数が決められたチェックポイントで写真を撮り合計得点を競うフォトロゲイニングの手法で行われ、日本人学生がホスト役となって高知城などの有名観光地や知る人ぞ知るスポットを巡りました。

本学では、2016年に同プロジェクト派遣事業で 学生が米国シアトルを訪れており、その際に「和紙」「田舎寿司」「自然」について英語でプレゼンテーションを行いました。今回の交流では、そのテーマのひとつである「田舎寿司」を昼食として米国人学生に実際に味わってもらうことにしました。訪日学生達は初めて食べるこんにゃくやたけのこの寿司の食感に驚きつつも「おいしい」との声があり気に入ってくれたようです。

街歩き後の得点発表では、2016年米国派遣学生のうち 2 名が司会を務め、各グループが撮った写真を参加者全員で振り返りました。指示通りに写真を撮って高得点をあげるグループもあれば、街歩き中に偶然遭遇したマスコットと撮った写真を発表するグループもあり、高知市での楽しい思い出を共有する場となりました。

最後に訪日学生の代表から今回の学生交流への感謝の言葉をいただき、本学でのプログラムは終了しましたが、終了後も名残惜しそうに記念撮影をしたり、連絡先を交換したりする様子が見られました。日本人学生の中には米国への留学を志す人もいて、今回の交流が大変刺激になった、今後もこのような機会があればぜひ参加したいとの声が多く聞かれました。



#### ※対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」

日本と北米との間で対外発信力を有し、将来を担う人材を招へい・派遣する事業。対日理解の促進を図るとともに、親日派・知日派の発掘、被派遣者自らによる発信を通じた対外発信強化等により、我が国の外交基盤を拡充することを目的としている。(外務省 HP より)

## (5) 海外派遣留学支援

海外留学説明会（企画・実施：高知大学研究国際部国際交流室）

第1回海外留学説明会		
開催日	平成29年4月19日	
会場	メディアホール（メディアの森）	
参加者数	71名	
プログラム	1.開会挨拶 2.海外留学の基本情報・準備の話 3.留学生による海外協定校の紹介（ロードアイランド大学） 4.共通教育科目「グローバルコミュニケーション」の紹介 5.留学推進団体「LINK 高知大学」の紹介	
第2回海外留学説明会		
開催日	平成29年7月18日、19日	平成29年7月12日
会場	(物部) 5-3教室 (朝倉) 共通教育棟127番教室	共通教育棟310番教室
参加者数	11名	19名
プログラム	トビタテ！留学JAPAN説明会 1.学内応募基本説明 2.留学計画の立て方ワークショップ	海外渡航危機管理セミナー 1.講義：国別危険情報・注意すべきポイントの提供と海外旅行保険の役割 2.座談会：経験者から聞く海外での危険回避Tips
第3回海外留学説明会		
開催日	平成29年11月22日	
会場	IKUS2階 談話室	
参加者数	9名	
プログラム	1.「キャリア」×「留学」セミナー・インターンシップの選び方ガイド 2.留学の基本情報説明 3.交換留学・海外ボランティア報告 ※留学資料閲覧コーナー・留学個別相談ブース開設	
第4回海外留学説明会		
開催日	平成30年1月17日	
会場	共通教育棟127番教室	
参加者数	10名	
プログラム	海外渡航危機管理セミナー 1.講義：国別危険情報・注意すべきポイントの提供と海外旅行保険の役割	

## (6) 国際交流基金助成事業

### ①平成28年度高知大学国際交流基金助成事業報告会を開催

日時：平成 29 年 4 月 19 日

概要：朝倉キャンパスメディアホールにおいて、平成 28 年度高知大学国際交流基金助成事業報告会を開催しました。

報告会には、平成 28 年度の「外国人留学生への奨学事業（一般型）」、「外国へ留学する学生への奨学事業」及び「大学院生の研究発表を目的とする海外派遣事業」の 3 つの事業の採択者 9 名を含む、学生・教職員約 30 名が参加しました。



まず新納国際連携推進センター長より、「学生には、この奨学金によって、積極的に留学してほしい」との挨拶の後、外国人留学生への奨学事業の採択者 2 名が学修状況報告、外国へ留学する学生への奨学事業の採択者 1 名がノルウェーでの半年間の留学報告、大学院生の研究発表を目的とする海外派遣事業の採択者 1 名がギリシャでの学会参加の成果報告を行いました。

また報告者からは、「日本で就職したい」、「留学の成果を卒論に活かしたい」など、貴重な経験を通して得た成果を今後へ還元していく抱負が語られました。

最後に、国際交流基金管理委員会委員長の櫻井理事（総務・国際・地域担当）から、自身の経験も交えながら、「外国で学ぶことは非常に貴重な経験であるので、この経験を今後に活かしてほしい。」との挨拶があり、報告会が締めくくられました。

### ②平成 29 年度第 1 回高知大学国際交流基金助成事業助成決定通知書交付式を挙行

日時：平成 29 年 7 月 19 日

概要：平成 29 年度高知大学国際交流基金助成事業決定通知書交付式を行いました。今回は学内関係者のほか、35 年以上にわたって物心両面にわたり本学の留学生を支援し、今年の解散時には、本基金に多額の寄付をいただいた「高知大学留学生を支援する会」から 4 名に来賓として出席いただきました。脇口学長からは、自身の留学経験に基づいて「留学の際には自分で自分の身を守ることを心がけ、かけがえのない経験をしてきてほしい。無事に帰国し、また元気に本事業の報告会で会えることを楽しみにしている。」とのメッセージが送されました。

また、本奨学金受給者を代表して、人文学部 3 年のパク ヒョンジュンさんから、「外





目的とする海外派遣事業」の3件の事業において、合計12名（うちH27年度からの継続1件）を採択しました。

国人ならではの視点から高知の良いところを発見し、観光PRにつながるような研究成果を発表したい。本日の感謝の気持ちを忘ることなく、今後の大学生活を過ごしたい。」との抱負と御礼が述べされました。

今回は、「外国人留学生への奨学事業（一般型、新戦略型）」、「外国へ留学する学生への奨学事業」、「大学院生の研究発表を

### ③平成29年度第2回高知大学国際交流基金助成事業助成決定通知書交付式を挙行

日時：平成29年12月20日

概要：第2回高知大学国際交流基金助成事業決定通知書交付式を行い、採択学生8名及び本学教職員11名の計19名が出席しました。

櫻井理事（総務・国際・地域担当）からは、自身の留学経験に基づいて、「留学中は現地の人と積極的にコミュニケーションを取り、交流を深めてほしい。留学終了後の報告を楽しみにしている。」とのメッセージが送られました。

また、本奨学金受給者を代表して、人文社会科学部2年の上原佳那さんから、「中国への留学を通して、語学力を高めるとともに、中国の文化を知り、日本の文化を伝えたい。これから留学を考えている学生に良いアドバイスができるよう、充実した留学生活をおくりたい。」との抱負と御礼が述べられました。

今回は、「外国人留学生への奨学事業（一般型）」、「外国へ留学する学生への奨学事業（交換留学支援型）」の2件の事業において、合計9名を採択しました。



<交付決定通知書授>



<交付式の様子>



<受給代表者挨拶>



<集合写真>

#### 4. 進学説明会

##### ①エール学園進路オリエンテーション

日時：2017年6月14日（水）9:00～13:00

概要：エール学園1号館にて、国公立大学5校（本学の他、愛媛大学・大阪大学・大阪府立大学・奈良女子大学）、私立大学13校（関西大学・関西学院大学・同志社大学・立命館大学・大阪産業大学・近畿大学・甲南大学・龍谷大学・大阪国際大学・大阪観光大学・東大阪大学・関西国際大学・大阪女学院大学）、専門学校10校が集まり、エール学園の進路オリエンテーションが行われました。

進路オリエンテーションは1回につき30分、合計4回行われました。高知大学の会場には約60名の学生が訪れ、真剣に説明に聞き入っていました。人文社会学部と理工学部の志望者が多く、昨年度の高知大学の合格ラインや奨学金に関する質問が多かったです。

高知大学の会場に来た留学生数：56名（記録に基づく）

希望学部・大学院	その他	希望留学生者数
人文社会科学部		24名
教育学部		3名
理工学部		18名
農林海洋科学部		1名
地域協働学部		1名
医学部		1名
土佐さきがけプログラム		1名
大学院		1名
	無記入	7名



##### ②ジーベック 2017年外国人留学生相談会、日本語学校訪問（香川）

日時：2017年7月5日（水）13:45～16:00

概要：高松センタービル12Fにて、国公立大学4校（本学の他、香川大学・京都工芸繊維大学・神戸市外国語大学）、私立大学8校（高松大学・高松短期大学・香川短期大学・愛知大学・天理大学・大阪産業大学・今治明徳短期大学・東京福祉大学）、専門学校8校が集まり、外国人留学生のための進学相談会が高松で行われました。

各大学のブースにて留学に関する個別相談が行われ、高知大学のブースには 11 名の学生が訪れました。学部志望者が 9 名、大学院・編入志望者が 2 名で、経済・経営に関する質問が多かった。地元の日本語学校は、ベトナムやネパールの留学生が 7 割を占め、大学や大学院に進学できるレベルには一部の留学生しか達しないとのことでしたが、相談に訪れた留学生は一人一人が長時間に渡り詳細に入試や大学に関する質問を投げかけ、その場で本学への受験を決めた学生もいました。



高知大学の会場に来た来場者数：11名

留学生	中国 7 名、ベトナム 4 名
来場者の在籍校	穴吹ビジネスカレッジ
希望学部	人文社会科学部：10 名（大学院 2 名含む） 農林海洋科学部：1 名

### ③ジーベック 2017 年外国人留学生相談会、日本語学校訪問（岡山）

日時：2017 年 7 月 6 日（木）11:00～14:30

概要：第一セントラルビル 1 号館 9F（岡山駅前）にて、国公立大学 8 校（本学の他、香川大学・島根大学・滋賀大学・京都工芸纖維大学・高知県立大学・尾道市立大学・神戸市外国語大学）、私立大学 13 校（山陽学園大学・岡山商科大学・就実大学・広島経済大学・広島国際学院大学・天理大学・愛知大学・四日市大学・大阪産業大学・京都ノートルダム女子大学・東京福祉大学・今治明徳短期大学・香川短期大学）、専門学校 18



校が集まり、外国人留学生のための進学相談会が岡山で行われました。

各大学のブースにて留学に関する個別相談が行われ、高知大学のブースには 20 名の学生が訪れました。学部志望者が 17 名、大学院・編入希望者が 3 名で、情報科学、人文科学、数学物理に関する質問が多かった。また、地元の岡山外語学院及び岡山ビジネスカレッジからは毎年本学を受験する学生がおり、本学への受験を真剣に考えている学生が多い傾向がありました。

高知大学のブースに来た来場者数：20名

留学生	中国 14 名、ベトナム 5 名、カンボジア 1 名
来場者の在籍校	岡山外語学院、岡山ビジネスカレッジ、長船日本語学校、倉敷外語学院
希望学部	人文学部：7 名、理工学部：12 名、農林海洋科学部：1 名

#### ④JASSO外国人学生のための進学説明会（東京）

日時：平成29年7月9日（日）10：00～16：00

概要：池袋サンシャインシティ文化会館2F 展示ホールにて、大学等への進学を目指している外国人留学生等を対象に、183機関が参加した独立行政法人 日本学生支援機構主催の進学説明会が行われました。当日の全体の参加人数は2,263名で、本ブースを訪れたのは、日本語学校教員数名も含めて45名でした。うち、大学院への進学希望者が7名でした。

##### 高知大学のブースに来た来場者

進学指導者	3名
留学生	42名（うち学部志望35名、大学院7名）
国籍	中国：22名 モンゴル：6名 マレーシア：4名 スリランカ：2名 イラン：2名 台湾：1名 韓国：1名 ベトナム：1名 ネパール：1名 ウズベキスタン：1名 ペルー：1名
希望学部 (複数回答)	人文社会学部：25名 理工学部：12名 医学部：4名 農林海洋科学部：1名 土佐さきがけプログラム国際人材コース：4名



<東京会場の様子>



<高知大学ブースの様子>

#### ⑤JASSO外国人学生のための進学説明会（大阪）

日時：平成29年7月15日（土）10：00～16：00

概要：梅田スカイビル TOWER WEST 10Fアウラホールにて、大学等への進学を目指している外国人留学生等を対象に、131機関が参加した独立行政法人 日本学生支援機構主催の進学説明会が行われました。当日の全体の参加人数は1,761名で、本ブースを訪れたのは、日本語学校教員数名も含めて40名でした。うち、大学院への進学希望者が4名でした。

## 高知大学のブースに来た来場者

進学指導者	7名
留学生	33名（うち学部志望29名、大学院4名）
国籍	中国：27名 台湾：1名 ベトナム：4名 インドネシア：1名
希望学部 (複数回答)	人文社会科学部：25名 理工学部：8名 医学部：1名 農林海洋科学部：2名 土佐さきがけプログラム国際人材コース：1名



＜高知大学ブースの様子＞



＜大阪会場の様子＞

### ⑥大阪日本語教育センター合同進学説明会

日時：2017年9月1日（金）14:30～17:00（学生対象進学説明会）

17:00～18:30（留学生受入れに関する意見交換会）

概要：国公立大学及び私立大学（本学の他、愛媛大学・大阪観光大学・大阪教育大学・大阪国際大学・大阪産業大学・大阪女学院大学・大阪市立大学・京都精華大学・京都造形芸術大学・近畿大学・神戸芸術工科大学・志賀大学・信州大学・帝塚山大学・東海大学・徳島大学・徳島文理大学・鳥取大学・長浜バイオ大学・名古屋商科大学・阪南大学・兵庫県立大学・三重大学・桃山学院大学・流通科学大学・和歌山大学）27校が集まり、大阪日本語教育センター合同進学説明会が行われました。

当日の全体の参加人数は120名で、高知大学の会場には約20名の学生が訪れ、理工学部への志望者が多く、編入を希望される学生、大学院への進学希望者が多かった。数名の希望者から複数学科の受験ができるどうか、また過去問題が入手できるかどうかの質問がありました。

高知大学の会場に来た留学生数：16名（記録に基づく）

<希望学部>

学部・大学院	希望留学生者数		備考
	学部	大学院	
人文社会科学部	2名	1名	3年次編入1名
教育学部	0名	0名	教育学部希望2名、無記入
理工学部	7名	2名	3年次編入4名 修士1名・博士1名
農林海洋科学部	2名	0名	
地域協働学部	0名	0名	
医学部	1名	0名	
土佐さきがけプログラム	0名	0名	
合計	12名	4名	

<国・地域別>

中国：9名、台湾：2名、ミャンマー：1名、アルゼンチン：1名、コロンビア：1名、モンゴル：1名、グアテマラ：1名

## 5. 日本語授業関係（授業時間割、シラバス等）

<2017年度第1学期国際連携推進センター日本語集中コース授業時間割>

曜日 時限	月曜日 Monday	火曜日 Tuesday	水曜日 Wednesday	木曜日 Thursday	金曜日 Friday
1 (09:00~10:30)	基礎文法（神崎） Japanese Grammar (Kanzaki)	基礎文法（石川） Japanese Grammar (Ishikawa)	基礎文法（池） Japanese Grammar (Ike)	基礎文法（尾中） Japanese Grammar (Onaka)	基礎文法（大塚） Japanese Grammar (Otsuka)
2 (10:40~12:10)	基礎文法（神崎） Japanese Grammar (Kanzaki)	基礎文法（石川） Japanese Grammar (Ishikawa)	基礎文法（池） Japanese Grammar (Ike)	基礎文法（尾中） Japanese Grammar (Onaka)	基礎文法（大塚） Japanese Grammar (Otsuka)
3 (13:10~14:40)	漢字・語彙（吉田） Japanese Kanji & Vocabulary (Yoshida)	聴解・会話（池） Japanese Listening Comprehension & Conversation(Ike)		聴解・会話（石川） Japanese Listening Comprehension & Conversation(Ishikawa)	作文（吉田） Japanese Composition (Yoshida)
4 (14:50~16:20)					
5 (16:30~18:00)					

<2017年度第1学期国際連携推進センター日本語総合コース授業時間割>

時限	開講キャンパス等	月(MON)	火(TUE)	水(WED)	木(THU)	金(FRI)
I 8:50~10:20	日本語集中(朝倉) 日本語総合(朝倉) 日本語総合(物部) 日本語総合(岡豊) 共通教育	基礎文法(神崎)	基礎文法(石川) 中級会話 I (尾中) 初級IV(神崎)	基礎文法(池)	基礎文法(尾中) 初級IV(今井)	基礎文法(大塚)
II 10:30~12:00	日本語集中(朝倉) 日本語総合(朝倉) 日本語総合(物部) 日本語総合(岡豊) 共通教育	基礎文法(神崎)	基礎文法(石川) 初中級会話 I (今井)	基礎文法(池) 地域文化理解(林・大塚・エバ)	基礎文法(尾中) アカデミック日本語 I (大塚・林) 初級II(今井)	基礎文法(大塚) 初中級文型(吉田)
III 13:10~14:40	日本語集中(朝倉) 日本語総合(朝倉) 日本語総合(物部) 日本語総合(岡豊) カウンセリング	初級漢字・語彙(吉田) 中級聽解 I (今井) 中級聽解・会話(東條)	初級聴解・会話(池)		初級聴解・会話(石川) 中級作文(神崎)	初級作文(吉田) 中級漢字・語彙 I (尾中)
IV 14:50~16:20	日本語集中(朝倉) 日本語総合(朝倉) 日本語総合(物部) 日本語総合(岡豊) 教育学部 オフィスアワー			エバ	物部(東條)13:00~15:00	
V 16:30~18:00	日本語集中(朝倉) 日本語総合(朝倉) 日本語総合(物部) 日本語総合(岡豊)	神崎	エバ・林	異文化理解A(林・大塚)	大塚・神崎	エバ

<2017年度第2学期国際連携推進センター日本語総合コース授業時間割>

時限	開講キャンパス等	月(MON)	火(TUE)	水(WED)	木(THU)	金(FRI)
I 8:50~10:20	集中コース(朝倉) 総合コース(朝倉) 総合コース(物部) 共通教育		初級 II (神崎)			日本語III(大塚)
II 10:30~12:00	集中コース(朝倉) 総合コース(朝倉) 総合コース(朝倉) 総合コース(物部) 総合コース(物部) 共通教育	中級読解(神崎)	基礎日本語(林) 初級 I (今井) 初級 III (伊崎) 日本語III(大塚)	高知文化事情(エバ) 基礎日本語(林)	アカデミック日本語 II (林) 基礎日本語(大塚) 初級 I (白川)	中級漢字・語彙II(池) 基礎日本語(大塚)
III 13:10~14:40	集中コース(朝倉) 総合コース(朝倉) 総合コース(物部) 共通教育 カウンセリング	初中級文法(吉田) 日本語IV(神崎)	中級聴解 II (林) 日本事情(東條・今井) 朝倉(エバ)		初級 II (石川) 日本語IV(神崎) 朝倉(エバ)	中級会話 II (尾中)
IV 14:50~16:20	集中コース(朝倉) 総合コース(朝倉) 総合コース(物部) オフィスアワー(朝倉)	神崎	エバ・林	初級 III (神崎)	初中級会話 II (神崎) 大塚	エバ
V 16:30~18:00	集中コース(朝倉) 総合コース(朝倉) 総合コース(物部) 総合コース(岡豊) オフィスアワー		日本語初級・日本事情(東條)		日本語中級(東條)	

**2017年度日本語集中コース**  
**第1学期授業シラバス<朝倉キャンパス>**

### I.授業の概要

大使館推薦の文部科学省国費留学生のためのコースである。4月第3週から始まり、週15コマ（30時間）の授業が15週間行われる。授業内容は「基礎文法」と「初級漢字・語彙」、「初級聴解・会話」、「初級作文」に分かれる。全体の構成は「基礎文法」10コマ、「初級漢字・語彙」1コマ、「初級聴解・会話」2コマ、「初級作文」1コマである。

また、教科書は『かな入門』、『みんなの日本語I』、『みんなの日本語II』を使用し、前半の初級Iは『かな入門』と『みんなの日本語I』まで、後半の初級IIは『みんなの日本語II』を学習する。

### II.授業レベルについて

初めて日本語を学習する学習者を対象とし、日本語の基本的な「話す、聞く、書く、読む」の4技能の習得と大学院での研究及び日常生活に必要な日本語の運用能力の習得を目指す。また、日本で生活していく上で必要な日本に関する知識を習得する。本コースの到達目標は、前半の初級Iは日本語能力試験N5レベル、後半の初級IIは日本語能力試験N4レベルとする。

### III.クラス内容

#### <初級I>

##### 授業科目

初級文法

##### 担当講師名

神崎道太郎（月）  
石川啓子（火）  
池純子（水）  
尾中美代子（木）  
大塚薰（金）

##### 曜日・時限

月～金曜日 1・2時限

授業内容：日本語学習の経験のない学習者を対象に、ひらがな・カタカナ五十音の読み書きと、日本語の実用的な日常会話と基本表現および生活必須語彙を、場面に即して実践的に習得する。日本語能力試験N5レベルの会話、聴解能力を目指す。

テキスト：『日本語かな入門』

- 『みんなの日本語初級I 本冊』
- 『みんなの日本語初級I 翻訳・文法解説 英語版』
- 『みんなの日本語初級I 書いて覚える文型練習帳』
- 『みんなの日本語初級I 練習C・会話イラスト集』
- 『みんなの日本語初級I 導入・練習イラスト集』

評価方法：出席点、平常点と試験

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初級漢字・語彙	吉田鈴香	月曜日 3 時限

授業内容：入門レベルの学習者を対象とし、初級レベルの漢字・語彙能力の向上を目指し、

80字程度の漢字とそれに関連する語彙を、文レベルの練習を通して学習する。

テキスト：『BASIC KANJI BOOK vol.1』等

評価方法：出席点、平常点と試験

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初級聴解・会話	池純子(火)・石川啓子(木)	火・木曜日 3 時限

授業内容：入門レベルの学習者を対象とし、入門から初級レベルまでの総合的な日本語を学習する。日本語によるコミュニケーション能力の習得を目指す。

テキスト：『みんなの日本語初級 I 聽解タスク 25』

『書いて覚える文型練習帳 I』

『みんなの日本語初級 I 標準問題集』等

評価方法：出席点、平常点と試験

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初級作文	吉田鈴香	金曜日 3 時限

授業内容：入門レベルの学習者を対象とし、入門から初級レベルまでの総合的な日本語を学習する。日本語による読解及び作文能力の向上を目指す。

テキスト：『みんなの日本語初級 やさしい作文』

『絵入り日本語作文入門』

『みんなの日本語初級 I 初級で読めるトピック 25』等

評価方法：出席点、平常点と試験

## <初級II>

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初級文法	神崎道太郎 (月)	月～金曜日 1・2 時限
	石川啓子 (火)	
	池純子 (水)	
	尾中美代子 (木)	
	大塚薰 (金)	

授業内容：『みんなの日本語初級 I』を学習し終えた学習者を対象に、日本語の実用的な

日常会話と基本表現および生活必須語彙を、場面に即して実践的に習得する。

日本語能力試験 N4 レベルの会話、聴解能力を目指す。

テキスト：『みんなの日本語初級 II 本冊』  
『みんなの日本語初級 II 翻訳・文法解説 英語版』  
『みんなの日本語初級 II 書いて覚える文型練習帳』  
『みんなの日本語初級 II 練習C・会話イラスト集』  
『みんなの日本語初級 II 導入・練習イラスト集』

評価方法：出席点、平常点と試験

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初級漢字・語彙	吉田鈴香	月曜日 3 時限

授業内容：入門レベルの学習者を対象とし、初級レベルの漢字・語彙能力の向上を目指し、150字程度の漢字とそれに関連する語彙を、文レベルの練習を通して学習する。

テキスト：『BASIC KANJI BOOK vol.1』等

評価方法：出席点、平常点と試験

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初級聴解・会話	池純子(火)・石川啓子(木)	火・木曜日 3 時限

授業内容：入門レベルの学習者を対象とし、入門から初級レベルまでの総合的な日本語を学習する。日本語によるコミュニケーション能力の習得を目指す。

テキスト：『みんなの日本語初級 II 聽解タスク 25』

『書いて覚える文型練習帳 II』

『みんなの日本語初級 II 標準問題集』等

評価方法：出席点、平常点と試験

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初級作文	吉田鈴香	金曜日 3 時限

授業内容：入門レベルの学習者を対象とし、入門から初級レベルまでの総合的な日本語を学習する。日本語による読解及び作文能力の向上を目指す。

テキスト：『みんなの日本語初級 やさしい作文』

『絵入り日本語作文入門』

『みんなの日本語初級 II 初級で読めるトピック 25』等

評価方法：出席点、平常点と試験

**2017年度日本語総合コース**  
**第1学期授業シラバス<朝倉キャンパス>**

### I. 授業の概要

高知大学朝倉キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。4月第3週から始まり、プレースメントテストを受けた受講生を対象とする。科目名は中級レベル対象の「初中級会話 I」、「初中級文型」、「中級作文」、「中級聴解 I」、「中級漢字・語彙 I」、「中級会話 I」、「地域文化理解」、中上級レベル対象の「アカデミック日本語 I」である。

### II. 授業レベルについて

初級レベルは、初めて日本語を学習する学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N5 レベルとする。

中級レベルは、初級修了レベルの学生を対象とし、中級前半から中級後半レベルへの4技能の実力向上を図る。到達目標は日本語能力試験 N2 レベルとする。

中上級レベルは、日本語能力試験 N2 レベルの学生を対象とし、上級レベルへの4技能の実力向上を図り、到達目標は日本語能力試験 N1 レベルとする。

### III. クラス内容

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初中級会話 I	大塚 薫	水曜日 2限

授業目標：留学生が主人公のマンガを通して日本人の季節感、現代日本の家族について理解を深める。また、それぞれの課で話題となっている内容について自国の文化と比較し、グループで話し合い発表の能力を高めることを目標とする。

テキスト：『マンガで学ぶ日本語表現と日本文化』アルク

評価方法：期末試験、出席、課題・受講態度

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初中級文型	吉田 鈴香	金曜日 2限

授業目標：初級の学習者にとって紛らわしい文型の復習をする。そして、その使い分けができるようになることを目標とする。

テキスト：『日本語集中トレーニングー初級から中級へー』アルク

評価方法：出席、課題、期末試験

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
中級作文	神崎 道太郎	月曜日 2限

授業目標：さまざまな機能表現を学ぶと同時に、短文から段落作成、体験報告などの一般文章の作成、そして資料を利用したレポートの書き方へと文章構成を段階的なトレーニングで論理的な日本語が書けるようになることをめざす。

テキスト：ハンドアウト

評価方法：課題・受講態度、出席

授業科目

中級聴解 I

担当講師名

石川 啓子

曜日・時限

火曜日 3 限

授業目標：基本的な聞き取り練習を通して語彙や表現を増やし、聴解、読解、会話能力の向上を図る。

テキスト：『聴くトレーニング〈聴解・聴読解〉基礎編』スリーエーネットワーク

評価方法：出席、授業中の活動、提出物

授業科目

中級漢字・語彙 I

担当講師名

尾中 美代子

曜日・時限

水曜日 1 限

授業目標：中級レベルにふさわしい語彙力と表現能力を身につける。

テキスト：『コロケーションが身につく日本語表現練習帳』研究社

評価方法：期末試験、受講態度、課題

授業科目

中級会話 I

担当講師名

池 純子

曜日・時限

金曜日 2 限

授業目標：グループディスカッションや発表を通して、言いたいことを適切に相手に伝えるための日本語のコミュニケーション能力を育成する。

テキスト：『コミュニケーションのためのクラス活動 40』スリーエーネットワーク

評価方法：期末試験、課題・受講態度

授業科目

アカデミック日本語 I

担当講師名

林翠芳・大塚薫

曜日・時限

木曜日 3 限

授業内容：大学の講義・演習をこなすための日本語能力を習得するとともに、学生生活を送る上で必要なコミュニケーション能力を身に付け、考える力を養い、「スピーチ」、「討論」などの発信型スキルを伸ばすことを目指とする。

テキスト：ハンドアウト

評価方法：最終発表、課題、出席・受講態度

**2017年度日本語総合コース**  
**第1学期授業シラバス<岡豊キャンパス>**

**I. 授業の概要**

高知大学岡豊キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。「日本語初級・日本事情」と「日本語中級」を週1コマずつ設け、2017年4月第3週から7月まで15週間開講する。

**II. 授業レベルについて**

「日本語初級・日本事情」は、初級レベルの学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。原則として留学生がいつ参加しても授業に主体性をもってかかわれる内容とする。

「日本語中級」は、初級修了レベルの学生を対象とし、中級レベルの4技能の実力アップを図る。到達目標は日本語能力試験 N2 レベルとする。

**III. クラス内容**

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時間</u>
日本語初級・日本事情	東條 美紀	木曜日 5限

授業内容：初級の日本語を使って会話を楽しむ。

使用教材：『にほんご これだけ！』2 ココ出版

自主教材

評価方法：出席、課題、授業態度

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時間</u>
日本語中級	東條 美紀	水曜日 5限

授業内容：まとめた文章を書き、自国の紹介や文化について語ることができることを目指す。日本の社会や文化を知り、比較しながら自国を日本語で紹介する準備をする。

使用教材：『日本語おしゃべりのたね』スリーエーネットワーク

評価方法：出席、課題、授業態度

**2017年度日本語総合コース**  
**第1学期授業シラバス<物部キャンパス>**

### I. 授業の概要

高知大学物部キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。4月第3週から始まり、日本語初級前半を学習している学習者を対象とする「初級II」、日本語初級前半を習得した学習者を対象とする「初級IV」を週2コマずつ設ける。また、既習者で初中級レベルの学生を対象とした「初中級聴解・会話」を週1コマ開講する。

### II. 授業レベルについて

「初級II」は日本語初級前半を学習している学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N5 レベルとする。

「初級IV」は日本語初級前半を習得している学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N4 レベルとする。

「初中級聴解・会話」は、初中級修了レベルの学生を対象とし、中級から上級レベルへの聴解・会話能力の向上を図る。到達目標は日本語能力試験 N3 レベルとする。

### III. クラス内容

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初級II	神崎道太郎(火)・今井多衣子(木)	火曜日 2限・木曜日 2限

授業内容：初級前半の学習半ばの学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。初級の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。

使用教材：『みんなの日本語初級I本冊第14課～第25課』スリーエーネットワーク

『みんなの日本語初級I翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク

評価方法：期末試験、課題・受講態度、出席

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初級IV	神崎道太郎(火)・今井多衣子(木)	火曜日 1限・木曜日 1限

授業内容：初級後半の学習半ばの学習者に対し、引き続き初級の日本語学習を行う。初級後半の基本的な文型・文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。

使用教材：『みんなの日本語初級II本冊第37課～第50課』スリーエーネットワーク

『みんなの日本語初級II翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク

評価方法：期末試験、課題・受講態度、出席

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初中級聴解・会話	東條 美紀	月曜日 3限

授業内容：日常的な日本語表現を聴き取り、適切な会話やスピーチができるようになる。

使用教材：『みんなの日本語初級Ⅱ本冊』スリーエーネットワーク

『会話の授業を楽しくするコミュニケーションのためのクラス活動40』スリーエーネットワーク

評価方法：期末試験、発表、授業への積極的態度

**2017年度日本語総合コース**  
**第2学期授業シラバス<朝倉キャンパス>**

### I. 授業の概要

高知大学朝倉キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。10月第1週から始まり、プレースメントテストを受けた受講生を対象とする。日本語未習者を対象とする「基礎日本語」、日本語既習者で中級レベルの学生を対象とした「初中級文法」、「初中級会話Ⅱ」、「中級読解」、「中級聴解Ⅱ」、「中級漢字・語彙Ⅱ」、「中級会話Ⅱ」、「高知文化事情」、中上級レベルの学生を対象とする「アカデミック日本語Ⅱ」を設ける。

### II. 授業レベルについて

入門レベルは初めて日本語を学習する学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N5 レベルとする。

中級レベルは、初級修了レベルの学生を対象とし、初級後半から中級前半レベルへの4技能の実力アップを図る。到達目標は日本語能力試験 N2 レベルとする。

中上級レベルは、日本語能力試験 N2 レベルの学生を対象とし、上級レベルへの4技能の実力アップを図り、到達目標は日本語能力試験 N1 レベルとする。

### III. クラス内容

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
基礎日本語	林翠芳(火・水)・大塚薰(木)	火2・水2・木曜日2・3限

授業内容：①ひらがな、カタカナの読み、書き  
②動詞のフォームを使った基本的な文型  
③生活必須語彙・表現

使用教材：『みんなの日本語初級 I 本冊』第1課～第25課 スリーエーネットワーク  
『みんなの日本語初級 I 翻訳・文法解説各国語版』スリーエーネットワーク

評価方法：期末試験、出席、授業態度

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初中級文法	吉田 鈴香	月曜日 3限

授業内容：初級レベルの文型を適切に使えるようになる。新しい文型を身につけ、中級レベルの日本語学習に進む準備をする。日本人や日本社会について書かれた文章を読みながら、初級文法を復習し、新しい文法を学習していく。短文作成に重点を置く。

使用教材：『中級日本語教科書 わたしの見つけた日本』東京大学出版会

評価方法：出席を含む受講態度、宿題、期末試験

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初中級会話 II	神崎 道太郎	木曜日 4限

授業内容：日常的な日本語表現を使い、適切な会話ができるようになることを目標とする。

身近な話題の中からトピックを選び、それに関連した内容で意見交換を行う。

使用教材：ハンドアウト

評価方法：課題・受講態度及び出席

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
中級読解	神崎 道太郎	月曜日 2限

授業内容：中級レベルの学習者を対象とし、文章全体の構造を考えながら分析的に読む練習を行い、読む能力と語彙力の養成を目指す。

テキスト：ハンドアウト

評価方法：課題・受講態度及び出席

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
中級聴解 II	林 翠芳	火曜日 3限

授業内容：会話場面におけるリスニング能力を高め、場面に応じて適切に話す能力を付けることを目標とする。

使用教材：『聞いて覚える話し方 日本語生中継』中～上級編 くろしお出版

評価方法：期末試験(発表)、出席、課題・受講態度

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
中級漢字・語彙 II	池 純子	金曜日 2限

授業内容：中級(N2程度)の漢字・語彙の習得を目指す。日常生活でよく使う漢字や語彙の定着を目的とする。漢字・語彙の小テストをしたり、学習した漢字や語彙を使った作文を宿題にしたりすることもある。

テキスト：『語彙マップで覚える漢字と語彙』Jリサーチ出版

『ペアで覚えるいろいろなことば』武蔵野書院

『新完全マスター漢字－日本語能力試験 N2』スリーエーネットワーク

評価方法：期末試験、課題・受講態度・出席

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
中級会話 II	尾中 美代子	金曜日 3限

授業内容：日常の様々なトピックについて、自分の考えや意見を発言できる。日常生活で目にする短い文を取り上げ、その文に込められた意味や感情などについて、グループで意見交換をし、発表する。

テキスト：ハンドアウト

評価方法：期末試験、課題・受講態度

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
高知文化事情	エバ・ガルシア	水曜日 2限

授業内容：土佐の伝統文化である「土佐和紙」、「ソバ打ち」、「朝倉神社秋祭り」、「寺院」などを体験しながら、自然環境や歴史的背景と文化の関係を考え、総括的に学習し、理解を深める。

テキスト：ハンドアウト

評価方法：課題提出・口頭発表、出席・受講態度、最終レポート

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
アカデミック日本語Ⅱ	林 翠芳	木曜日 2限

授業内容：大学の講義・演習をこなすための日本語能力を習得するとともに、学生生活を送る上で必要なコミュニケーション能力を身に付け、考える力を養い、「スピーチ」、「討論」などの発信型スキルを伸ばすこととする。

テキスト：『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』 The Japan Times

『大学で学ぶための日本語ライティング』 The Japan Times

評価方法：最終発表、課題提出、出席・受講態度

**2017年度日本語総合コース**  
**第2学期授業シラバス<岡豊キャンパス>**

**I. 授業の概要**

高知大学岡豊キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。「日本語初級・日本事情」「日本語中級」を週1コマずつ設け、2017年10月第1週から2018年2月まで15週間開講する。

**II. 授業レベルについて**

「日本語初級・日本事情」は、初級レベルの学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。原則として留学生がいつ参加しても授業に主体性をもってかかわれる内容とする。

「日本語中級」は、初級修了レベルの学生を対象とし、初級後半から中級前半レベルへの4技能の実力アップを図る。到達目標は日本語能力試験N3レベルとする。

**III. クラス内容**

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時間</u>
日本語初級・日本事情	東條 美紀	火曜日 5限

授業内容：初級レベルの日本語を使ってコミュニケーションをとる楽しさを日本事情や相互文化理解をとおして学習する。

使用教材：『日本語 これだけ！2』ココ出版、自主教材

評価方法：出席、課題、授業態度

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時間</u>
日本語中級	東條 美紀	木曜日 5限

授業内容：ドリルとタスクで会話能力をあげる。

使用教材：『会話のほんご』Japan Times

評価方法：出席、課題、授業態度

**2017年度日本語総合コース**  
**第2学期授業シラバス<物部キャンパス>**

### I. 授業の概要

高知大学物部キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。10月第1週から始まり、日本語未習者を対象とする「初級Ⅰ」、日本語入門を習得した学習者を対象とする「初級Ⅱ」、日本語初級前半を習得している学習者を対象とする「初級Ⅲ」、2017年に来日した学生を対象とする「日本事情」を設ける。「初級Ⅰ」、「初級Ⅱ」、「初級Ⅲ」は週2コマ、「日本事情」は週1コマである。

### II. 授業レベルについて

「初級Ⅰ」は初めて日本語を学習する学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N5 レベルとする。

「初級Ⅱ」は日本語入門を習得している学生を、「初級Ⅲ」は日本語初級前半を習得している学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N4 レベルとする。

「日本事情」は、日本の生活に慣れていない学生を対象とし、高知県での生活環境に慣れ、今後生活していく上で様々な情報を習得し、地域の人々とも円満な関係を築けるようになることを目指す。

### III. クラス内容

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初級Ⅰ	今井多衣子(火)・石川啓子(木)	火・木曜日 2限

授業内容：①ひらがな、カタカナの読み、書き  
②動詞のフォームを使った基本的な文型  
③生活必須語彙・表現

使用教材：『にほんご 45 じかん』第1課～第15課  
『にほんご 45 じかん れんしゅうちょう』  
『かな入門』

評価方法：期末試験、小テスト・受講態度、出席

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初級Ⅱ	神崎道太郎(火)・石川啓子(木)	火曜日 1限・木曜日 3限

授業内容：初級前半の学習半ばの学習者に対し、引き続き初級の日本語学習を行う。初級前半の基本的な文型・文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。

使用教材：『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第14課～第25課 スリーエーネットワーク

『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク

評価方法：期末試験、課題・受講態度、出席

授業科目

初級Ⅲ

担当講師名

神崎道太郎

曜日・時限

火曜日 2限・水曜日 4限

授業内容：初級前半を学習した学習者に対し、引き続き初級の日本語学習を行う。初級前半から後半にかけての基本的な文型・文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。

使用教材：『みんなの日本語初級Ⅱ本冊』第26課～第37課 スリーエーネットワーク

『みんなの日本語初級Ⅱ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク

評価方法：期末試験、課題・受講態度、出席

授業科目

日本事情

担当講師名

今井多衣子・東條美紀

曜日・時限

火曜日 3限

授業内容：高知県及び高知市、南国市での生活環境に慣れ、印象深い日本文化体験をする。

- ① オリエンテーション、自己紹介
- ② 高知市へ行き、日本人と待ち合わせ
- ③ 大学一日公開日の準備
- ④ 大学一日公開日「日本語カフェ」での日本語実習
- ⑤ 南国市の生活ガイドと災害に関する情報
- ⑥ 葉ニンニクの収穫体験
- ⑦ 日本の年間伝統行事と年賀状
- ⑧ 日本の正月体験
- ⑨ 日本事情の感想と各国事情との比較

使用教材：ハンドアウト

評価方法：課題、受講態度、出席

## 6. 出版・刊行物等

(<http://www.kochi-u.ac.jp/international/brochure/>)

### 高知大学英文広報誌 Welcome to Kochi University



## 高知大学国際交流 HP

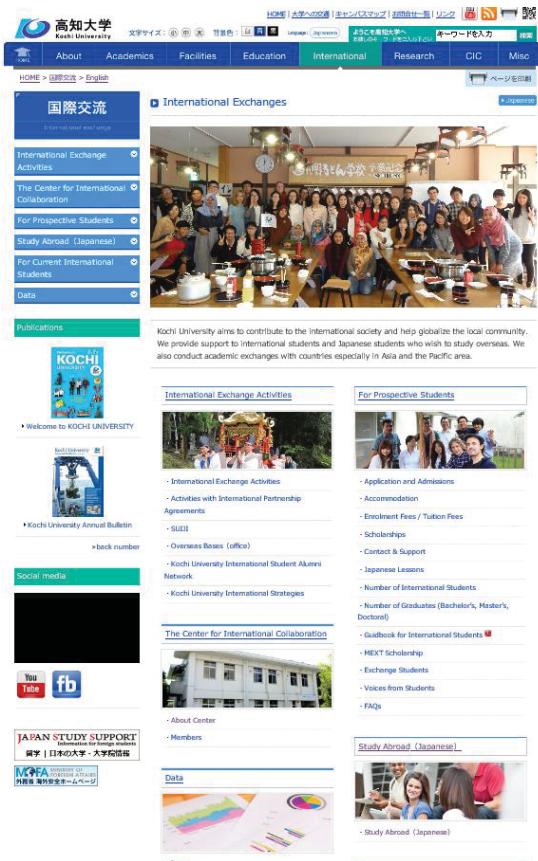
日本語版：

<http://www.kochi-u.ac.jp/international/index.html>



英語版：

<http://www.kochi-u.ac.jp/international/english/index.html>



## Facebook (高知大学 国際連携推進センター)

<https://www.facebook.com/kochiuniversity.international/>

## **7.会議関連**

国際連携推進センター運営戦略室会議名簿

国際連携推進委員会名簿

留学生専門委員会名簿

平成29年5月18日

## 平成29年度国際連携推進センター運営戦略室会議名簿

◎議長	新納 宏	センター長	第2条第1項
委員	是永 かな子	副センター長	第2条第2項
委員	柴田 雄介	国際フロジエク部門長	第2条第3項
委員	林 翠芳	国際連携教育部門長	第2条第3項
委員	平井 敏彦	研究国際部長	第2条第4項
委員	菅沼 成文	副学長（国際連携担当）	第2条第5項

## 国際連携推進委員会名簿

平成29年9月1日現在

部 局・職 名	氏 名	任 期	備 考
副学長(国際連携担当)	菅沼成文		
国際連携推進センター長	新納宏		
大学教育創造センター長	小島郷子		
学生総合支援センター長	岩崎貢三		
総合研究センター長	大西浩平		
地域連携推進センター長	受田浩之		
国際連携推進センター副センター長	是永かな子		
国際連携推進センター国際プロジェクト部門長	柴田雄介		
国際連携推進センター国際連携教育部門長	林翠芳		
人文社会科学部選出教員	宗 洋	29.9.1~30.3.31	
教育学部選出教員	松原史典	28.4.1~30.3.31	
理工学部選出教員	梶芳浩二	29.4.1~30.3.31	
医学部選出教員	小林道也	28.4.1~30.3.31	
農林海洋科学部選出教員	池島耕	28.4.1~30.3.31	
地域協働学部選出教員	大槻知史	29.4.1~31.3.31	
黒潮圏総合科学専攻選出教員	新保輝幸	28.4.1~30.3.31	
センター連絡調整会議選出教員(国際連携推進センター長が兼務)	新納宏	28.4.1~30.3.31	
土佐さきがけプログラム選出教員	柴田雄介	28.4.1~30.3.31	
研究国際部長	平井敏彦		
その他委員長が必要と認めた者			
委員18名(定足数は2分の1以上:9名)			

## 高知大学国際連携推進委員会留学生専門委員会名簿

平成29年10月1日現在

部 局・職 名	氏 名	任 期	備 考
1 国際連携推進センター長	新 納 宏		
2 国際連携推進センター副センター長	是 永 か な 子		
3 国際連携推進センター国際プロジェクト部門長	柴 田 雄 介		
4 国際連携推進センター国際連携教育部門長	林 翠 芳		
5 国際連携推進センター専任担当教員	神 崎 道 太 郎		
6 国際連携推進センター専任担当教員	林 翠 芳		
7 国際連携推進センター専任担当教員	大 塚 薫		
8 国際連携推進センター専任担当教員	Eva Garcia del Saz		
9 人文社会科学部選出教員	宗 洋	29.10.1～30.3.31	
10 教育学部選出教員	松 原 史 典	28.4.1～30.3.31	
11 理工学部選出教員	米 村 俊 昭	28.4.1～30.3.31	
12 医学部選出教員	小 林 道 也	28.4.1～30.3.31	
13 農林海洋科学部選出教員	池 島 耕	28.4.1～30.3.31	
14 地域協働学部選出委員	大 楓 知 史	29.4.1～31.3.31	
15 黒潮圏総合科学専攻選出教員	久 保 田 賢	28.4.1～30.3.31	
16 土佐さきがけプログラム教員	柴 田 雄 介	29.4.1～30.3.31	
17 国際交流室長	門 脇 英 雄		
18 学生支援課長	水 間 貫 了		
その他の委員長が必要と認めた者			

委員18名(定足数12名)

## 8. その他

海外協定校（大学間・部局間協定一覧表）

外国人留学生在籍（国別）

外部資金獲得状況

大学間協定一覧表(平成29年5月1日現在)

NO	相手機関名	国名・地域名	締結年月日	内 容	中心部局
1	クイーンズランド大学	オーストラリア連邦	1980.10.01	学生交流	国際連携推進センター
2	佳木斯大学		1980.11.07	学術交流	
3	カリフォルニア州立大学フレズノ校	中華人民共和国	1985.10.22	学術交流及び学生交流	医学部
4	陝西科技大学	アメリカ合衆国	1989.04.01	学術交流及び学生交流	国際連携推進センター
5	揚州大学	中華人民共和国	1994.07.26	学術交流及び学生交流	理工学部
6	コンケン大学	タイ王国	1997.03.10	学術交流	農林海洋科学部
7	南ボヘミア大学	タイ王国	1997.03.27	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
8	チェコ科学アカデミー生物学センター	チェコ共和国	1999.06.23	学術交流及び学生交流	教育学部
9	カセサート大学	チェコ共和国	1999.06.24	学術交流	教育学部
10	安徽大学	タイ王国	2000.05.01	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
11	ハノイ科学工業大学	ベトナム社会主義共和国	2002.05.21	学術交流及び学生交流	教育学部
12	ハノイ科学大学	ベトナム社会主義共和国	2002.07.02	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
13	ブリビジャヤ大学	インドネシア共和国	2003.02.28	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
14	漢陽大学校	大韓民国	2003.06.26	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
15	韓瑞大学校	大韓民国	2003.07.23	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
16	国立ポリテク工科大学 応用研究所、サルティジョ校	メキシコ合衆国	2003.09.08	学術交流及び学生交流	理工学部
17	サルティジョ工科大学	メキシコ合衆国	2003.09.09	学術交流及び学生交流	理工学部
18	チエンデラワニ大学	インドネシア共和国	2004.09.28	学術交流及び学生交流	医学部
19	瀋陽薬科大学	中華人民共和国	2005.05.12	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
20	フィリピン大学	フィリピン共和国	2005.11.24	学術交流及び学生交流	黒潮圏
21	ハノイ国立教育大学	ベトナム社会主義共和国	2006.01.06	学術交流	農林海洋科学部
22	イエーテボリ大学	スウェーデン王国	2006.02.27	学術交流及び学生交流	教育学部
23	ピコール大学	フィリピン共和国	2006.03.31	学術交流及び学生交流	黒潮圏
24	河南大学	中華人民共和国	2006.04.10	学術交流及び学生交流	教育学部
25	常州大学	中華人民共和国	2006.12.20	学術交流及び学生交流	理工学部
26	天津師範大学	中華人民共和国	2006.12.28	学術交流及び学生交流	教育学部
27	ボゴール農業大学	インドネシア共和国	2007.03.01	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
28	マレーシアプトラ大学	マレーシア	2007.05.18	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
29	国立中山大学	台湾	2007.05.14	学術交流及び学生交流	黒潮圏
30	東海大学	台湾	2007.10.18	学術交流及び学生交流	教育学部
31	スリヴィジャヤ大学	インドネシア共和国	2008.03.11	学術交流	農林海洋科学部
32	金剛大学校	大韓民国	2008.12.09	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
33	南京航空航天大学	中華人民共和国	2009.11.12	学術交流及び学生交流	理工学部
34	マレーシアサラワク大学	マレーシア	2009.11.24	学術交流及び学生交流	黒潮圏
35	ハルオレオ大学	インドネシア共和国	2009.12.16	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
36	中国文化大学	台湾	2010.01.20	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
37	タンジュンプラ大学	インドネシア共和国	2010.02.01	学術交流及び学生交流	黒潮圏
38	白石大学校	大韓民国	2010.03.25	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
39	上海海洋大学	中華人民共和国	2010.10.15	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
40	南マットグロソン連邦大学	ブラジル共和国	2012.03.13	学術交流	医学部
41	明知大学校	大韓民国	2013.01.03	学術交流及び学生交流	国際連携推進センター
42	チエンマイ大学	タイ王国	2013.02.12	学術交流	農林海洋科学部
43	サッサリ大学	イタリア	2013.02.21	学術交流及び学生交流	地域協働学部
44	国立慶尚大学校	大韓民国	2013.03.04	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
45	北京聯合大学	中華人民共和国	2013.03.11	学術交流及び学生交流	教育学部
46	アイルランド王立外科医学院バーレーン医科大学	バーレーン王国	2013.03.21	学術交流	医学部
47	北京外国语大学	中華人民共和国	2013.06.21	学術交流及び学生交流	教育学部
48	東国大学校	大韓民国	2013.07.03	学術交流及び学生交流	教育学部
49	タマサート大学	タイ王国	2013.08.20	学術交流及び学生交流	理工学部
50	国立東華大学	台湾	2013.08.27	学術交流及び学生交流	黒潮圏
51	アラビア湾岸諸国立大学	バーレーン王国	2014.02.13	学術交流	医学部
52	ハンゼ応用科学大学	オランダ	2015.03.09	学術交流及び学生交流	土佐さきがけプログラム
53	タイグエン大学	ベトナム社会主義共和国	2015.03.25	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
54	東北大学秦皇島分校	中華人民共和国	2015.04.15	学術交流及び学生交流	教育学部
55	ロードアイランド大学	アメリカ合衆国	2015.06.17	学術交流及び学生交流	土佐さきがけプログラム
56	ガーナ大学	ガーナ共和国	2015.09.09	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
57	インランドノルウェー応用科学大学	ノルウェー王国	2015.12.03	学術交流及び学生交流	教育学部
58	テキサス大学ダラス校	アメリカ合衆国	2016.02.04	学術交流	土佐さきがけプログラム

部局間協定一覧表(平成29年5月1日現在)

NO	大学名	国名・地域名	締結年月日	内容	担当部局
1	タイ 農林水産省水産庁	タイ王国	2001.11.26	学術交流	農林海洋科学部
2	首都医科大学口腔医学院	中華人民共和国	2004.10.28	学術交流	医学部
3	インドネシア科学技術省技術評価応用庁	インドネシア共和国	2006.11.28	学術交流	農林海洋科学部
4	釜山外国语大学校日本語大学	大韓民国	2007.03.08	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
5	韓国地質資源研究院石油海洋資源部	大韓民国	2007.08.08	学術交流	海洋コア
6	フィリピン農業省漁業・水産資源局第2地域支所	フィリピン共和国	2007.08.24	学術交流	黒潮圏
7	天津科技大学経済与管理学院	中華人民共和国	2008.04.04	学術交流	人文社会科学部
8	ロモソブ初等中等高等学校	ベトナム社会主義共和国	2008.12.01	学術交流	教育学部
9	中国科学院地球環境研究所	中華人民共和国	2009.09.29	学術交流	海洋コア
10	パドバ大学理工学部	イタリア	2010.01.20	学術交流	理工学部
11	ハワイ大学医学部	アメリカ合衆国	2010.02.10	学術交流	医学部
12	モナッシュ大学サステナブルケミカルマニュファクチャリングセンター	オーストラリア連邦	2010.08.09	学術交流	理工学部
13	スウェーデン王国オイレショ一特別学校	スウェーデン王国	2011.02.15	学術交流	教育学部
14	浙江大學生物系統工程及び食品科学学院	中華人民共和国	2011.04.18	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
15	国立台湾大学医学部	台湾	2011.10.11	学術交流及び学生交流	医学部
16	モンゴル・ロシア共同学校	モンゴル国	2012.06.05	学術交流及び学生交流	教育学部
17	中国地質大学資源学院	中華人民共和国	2012.08.14	学術交流	理工学部
18	シェレバングラ農科大学	バングラデシュ	2012.10.08	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
19	カリヤニ大学	インド	2012.10.10	学術交流	総合研究センター
20	韓国中央大学赤十字看護学部	大韓民国	2014.02.21	学術交流	医学部
21	リア外国语大学	インドネシア共和国	2014.06.30	学術交流及び学生交流	教育学部
22	ユバスキュラ大学教育学部	フィンランド共和国	2015.12.10	学術交流及び学生交流	教育学部
23	パレストラ体育スポーツ大学	チェコ共和国	2016.01.26	学術交流及び学生交流	教育学部
24	メトロポリタン大学社会科学教育学部学校学習研究所	デンマーク王国	2016.08.15	学術交流及び学生交流	教育学部
25	高雄大学人文社会科学部	台湾	2016.09.21	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
26	オーフス大学教養学部	デンマーク王国	2016.09.22	学術交流	教育学部
27	開南大学	台湾	2016.11.29	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
28	北京語言大学	中華人民共和国	2016.12.19	学術交流及び学生交流	人文社会科学部

## 高知大学外国人留学生在籍状況

H29.05.01現在

項目 国名・地域名	国費								小計	私費								小計	計		合計				
	学部		修士		博士		研究生等			学部		修士		博士		研究生等			男		女				
	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女	男	女		男	女					
アジア	インド											1							1	1		1			
	インドネシア						1		1						1	1	1	4	7	2	6	8			
	韓国									5	2		1				5		13	10	3	13			
	カンボジア						1	1												1		1			
	タイ						1		1												1	1			
	台湾									1	1							3	5	1	4	5			
	中国		1	2	1				4	13	5	2	1	1		4	20	46	23	27	50				
	ネパール									3	1	1	1	1					7	5	2	7			
	バングラデシュ		1	4					5			1				1			2	6	1	7			
	フィリピン			4	3				7										4	3	7				
	ベトナム									1	2	2		2	1				8	5	3	8			
	マレーシア				1					1		2				1			3	1	3	4			
	ミャンマー														1				1	1		1			
北米	モンゴル									1	3								4	1	3	4			
	アメリカ																	2	2		2	2			
	南米	アルゼンチン					1			1										1		1			
ヨーロッパ	ウクライナ		1							1										1		1			
	オランダ																	1	1	1	1				
	スウェーデン															1	2	3	1	2	3				
	ロシア			1						1										1	1				
アフリカ	エチオピア						1	1												1		1			
	ガーナ				1					1										1		1			
	コンゴ民主共和国														1	1		2	1	1	2				
総計			3	1	13	6	2		25	23	16	8	3	7	5	12	31	105	68	62	130				
学部	人文学部/人文社会科学部									7	6						5	4	22	12	10	22			
	教育学部							1		1	1	1					5	14	21	7	15	22			
	理学部/理工学部									8	2							3	13	8	5	13			
	農学部/農林海洋科学部									3	4							7	3	4	7				
	地域協働学部																1	1		1	1				
	土佐さきがけプログラム									4	3						1	2	10	5	5	10			
大学院総合人間自然科学研究科	人文社会科学専攻				1					1			2	1				3	2	2	4				
	教育学専攻		1						1									2	2	1	2				
	理学専攻		1						1										1		1				
	医科学専攻						1	1				1	1					2	2	1	3				
	医学専攻				1				1						2	2		4	3	2	5				
	農学専攻		1						1			5	1			1	4	11	7	5	12				
	黒潮圏総合科学専攻				5	3			8					4	1			5	9	4	13				
愛媛大学大学院連合農学研究科					7	3			10					1	2		1	4	8	6	14				
総計			3	1	13	6	2		25	23	16	8	3	7	5	12	31	105	68	62	130				

# 国際関係外部資金 申請採択状況

申請年度	機関名	事業名	申請年月	申請件数		採択件数	採択金額
平成29年度	(独)日本学術振興会	外国人特別研究員(一般) 平成29年度第2回	平成29年4月	理工学部	1	0	
				農林海洋科学部	1	1	滞在費362,000円／月 国際航空券・海外旅行 保険 調査研究費
				医学部	2	0	
		外国人招へい研究者(短期) 平成29年度第2回	平成29年4月	医学部	1	1	滞在費18,000円／日 国際航空券・海外旅行 保険 調査研究費150,000円
	国立研究開発法人 科学技術振興機構	外国人特別研究員(欧米短期) 平成29年度第3回	平成29年4月	農林海洋科学部	1	1	
		平成29年度サマープログラム	-	理工学部	1	1	渡航費 滞在費534,000円 調査研究費158,500円
	(独)日本学生支援機構	日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン) 平成29年度第2回募集	平成29年4月	黒潮圏総合科学専攻	1	1	2,613,358円
		日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン) 平成29年度第3回募集	平成29年7月	農林海洋科学部	1	審査中	
		平成29年度海外留学支援制度(協定派遣)	平成28年10月	全学	1	1	2,800,000円
		平成29年度海外留学支援制度(協定受入)		教育学部	1	1	240,000円
平成28年度	(独)日本学術振興会	地域協働学部		2	1	240,000円	
		土佐さきがけプログラム		1	0		
		地域協働学部		2	1	1,200,000円	
		土佐さきがけプログラム		1	0		
		外国人特別研究員(一般) 平成28年度第2回	平成28年4月	農林海洋科学部	1	0	
		外国人招へい研究者(短期) 平成28年度第2回		海洋コア	1	0	
		医学部		1	0		
	国立研究開発法人 科学技術振興機構	外国人特別研究員(一般) 平成29年度第1回	平成28年8月	医学部	2	0	
		外国人招へい研究者(短期) 平成29年度第1回	平成28年4月	農林海洋科学部	1	0	
		二国間交流事業共同研究・セミナー 平成28年度	平成28年8月	理学部	1	0	
平成27年度	(独)日本学術振興会	平成28年8月	農林海洋科学部	1	1	滞在費18,000円／日 国際航空券・海外旅行 保険 調査研究費150,000円	
		地域協働学部		1	1		
		二国間交流事業共同研究・セミナー 平成28年度		医学部	1	0	
		平成28年9月		総合研究センター	1	0	
		日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン) 平成28年度第2回募集	平成28年7月	黒潮圏総合科学専攻	1	0	
	国立研究開発法人 科学技術振興機構	日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン) 平成28年度第3回募集	平成28年10月	黒潮圏総合科学専攻	1	1	2,536,578円
		平成29年度海外留学支援制度(協定派遣)	平成28年10月	地域協働学部	1	1	450,000円
		平成29年度海外留学支援制度(協定受入)	平成28年10月	地域協働学部	2	2	1,760,000円
	(独)日本学生支援機構	平成28年度帰国外国人留学生短期研究制度	平成28年12月	農林海洋科学部	1	1	滞在費11,000円／日 往復航空券 愛人協力費50,000円
		外国人特別研究員(一般) 平成27年度第2回	平成27年5月	農学部	2	0	-
		平成27年5月	医学部	1	0	-	
		論文博士号取得希望者に対する支援事業 平成28年度	平成27年8月	農学部	1	0	-
		外国人招へい研究者(長期) 平成28年	平成27年8月	農学部	1	0	-
平成26年度	(独)日本学術振興会	平成27年8月	平成27年8月	農学部	1	1	3,876,000円 国際航空券 海外旅行保険
		外国人特別研究員(一般) 平成28年度第1回	平成27年8月	理学部	1	0	-
		外国人特別研究員(推薦)	-	理学部	1	1	8,888,000円 往復航空券 海外旅行保険
		二国間交流事業共同研究・セミナー 平成28年度	平成27年9月	海洋コア	1	1	2,400,000
		平成27年9月	農学部	1	0	-	
	国立研究開発法人 科学技術振興機構	平成27年9月	医学部	1	0	-	
		平成27年9月	総合研究センター	1	1	2,500,000円	
		(独)日本学術振興会・公益社団法人 日本工学アカデミー 平成27年度	平成27年4月	理学部	1	0	-
	(独)日本学生支援機構	日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン) 平成27年度第2回募集	平成27年6月	黒潮圏総合科学専攻	1	1	2,869,790円
		日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン) 平成28年度第1回募集	平成28年3月	農学部	1	1	3,187,360円
		平成28年度帰国外国人留学生短期研究制度	平成27年12月	農学部	1	1	990,000円 往復航空券
		平成28年度海外留学支援制度(協定派遣)	平成27年12月	総合研究センター	1	0	-
		平成28年度海外留学支援制度(協定受入)	平成26年10月	総合教育センター	1	1	550,000円
平成25年度	(独)日本学生支援機構	平成28年10月	農学部	1	1	840,000円	
		公益財団法人中島記念国際交流財団助成による平成28年度留学生 地域交流事業	平成28年3月	総合教育センター	1	0	
		平成28年3月	国際連携推進センター	1	0		
		一般財団法人 日本国際協力センター	平成27年9月	人文学部	1	1	210,000円
		対日理解促進交流プログラム(北米事業KAKEHASHI派遣プログラム)	平成27年9月	全学	1	1	学生13名派遣
	(独)日本学術振興会	外国人特別研究員(一般) 平成26年度第2回	平成26年5月	医学部	1	0	-
		平成26年5月	農学部	6	0	-	
		平成26年5月	理学部	1	0	-	
		外国人特別研究員(一般) 平成27年度第1回	平成26年9月	農学部	2	0	-
		平成26年9月	医学部	2	0	-	
平成24年度	(独)日本学生支援機構	外国人招へい研究者(長期) 平成27年度	平成26年9月	農学部	1	0	-
		平成26年9月	医学部	1	0	-	
		論文博士号取得希望者に対する支援事業 平成27年度	平成26年8月	医学部	1	0	-
		二国間交流事業共同研究・セミナー 平成27年度	平成27年2月	医学部	1	0	-
		平成27年2月	総合教育センター	1	1	690,000円	
	国立研究開発法人 科学技術振興機構	平成27年度海外留学支援制度(協定派遣 短期研修・研究型)	平成25年11月	医学部	1	0	
		平成27年度海外留学支援制度(協定受入、短期研修・研究型)	平成25年11月	農学部	1	1	560,000円
		帰国外国人留学生短期研究制度	平成27年5月	農学部	2	0	-
		日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン) 平成26年度第1回募集	平成26年5月	黒潮圏総合科学専攻	1	1	3,083,469円
		日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン) 平成26年度第2回募集	平成26年7月	農学部	1	0	-
平成23年度	(独)日本学生支援機構	日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン) 平成27年度第1回募集	平成27年2月	高知大学SUIJ推進室	1	1	3,324,838円
		日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン) 平成27年度第2回募集	平成27年2月	農学部	2	1	3,719,760円